東洋學藝雜誌第三十九號

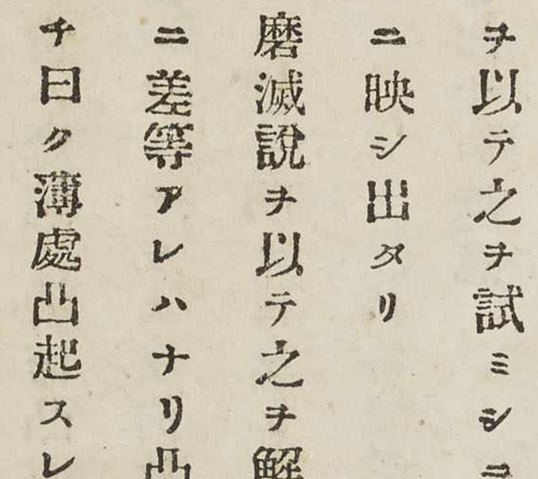
○魔鏡ノ解　第二回　村岡範爲馳

魔鏡ノ現象ニ就キ先輩ノ研究ニ係ル成績左ノ如シ曰ク鏡面ヨリ反射スル日光ヲ壁上ニ投スレハ背面ノ字畫顯映スルノ原因ハ鏡背凸處ニ對スル處凹窪ナル「ニアリ」又余ノ研究ニ係ル成績左ノ如シ(當雜誌第二十五號或ハウヰデマン氏物理化學新聞第二十二號等ヲ參照スヘシ)第一如何ナル日本鏡ト雖充分研磨シテ之ヲ薄ロクレハ魔鏡トナスヲ得ヘシ第二凡ソ薄キ金屬板ハ一面ヲ研磨スレハ其面凸起スルノ性質ヲ有スヽ而シテ板益々薄キトキハ凸起益々著大ナリ第三魔鏡ノ背面凸處ニ對スル處凹窪ナル所以ハ研磨ヲ受クル鏡板ノ薄處ハ凸起スルヿ大ニシテ厚處ハ小ナルニアリ第四研磨ノ凸起ヲ來タスノ原因ハ分子平等ノ位置ヲ變スルニアリ

茲ニ第三ノ成績ニ對シ他ノ解說ヲ下スヿヲ得ヘシ曰ク魔鏡ノ背面凸處ニ對スル處凹窪ナル所以ハ研磨ノ際凸處ノ壓サルヽヿ他處ヨリ强キヲ以テ磨滅モ亦從テ大ナルニアリト此說タルヤ大ニ信憑スヘキカ如シト雖未タ之ヲ證スルノ實驗ナク故ニ又余ノ說ヲ駁スルノ事實ナシトス然レトモ一事ヲ解スルニ二說並ヒ行ハルヽハ必竟二說共ニ盡サヽル所アルニ依ルナリ余今二個ノ試驗ヲ施シテ二說ノ是非ヲ決セントスルニ當リ第一說ヲ名ツケテ凸起說ト云ヒ第二說ヲ磨滅說ト稱セントス

第一試驗　鎮鍮板ヲ擇拔キテ田ノ字形ヲ作リ之ヲ他ノ同周圍ノ鎮鍮板ニ鑞着ケスルヿ第一圖(切圖)ヲ以テ示スカコトクシ、即チ「イロハ」ハ鎮鍮板ニシテ「ニ」「ホ」「ヘ」ハ田ノ字ノ線ナリ、田ノ字ヲ壓スルヿ殊ニ强カラシメンカ爲メニ封臘「ト」「チ」「リ」ヲ以テ之ヲ「ヌ」ナル木片ニ付着シ礪石ニテ鎮鍮板ヲ研磨シ水銀ヲ掛ケテ鏡面トナシ日光ヲ以テ之ヲ試ミシニ田ノ字形ノ光像明瞭ニ映シ出タリ

第一圖

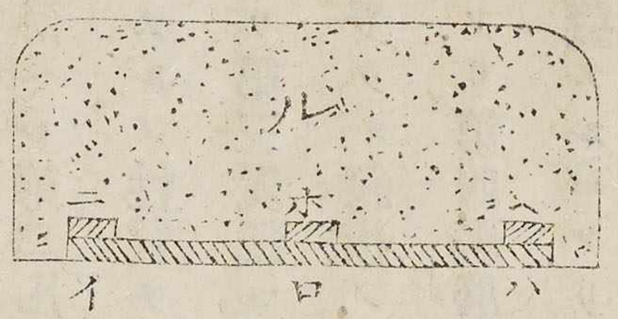


磨滅說ヲ以テ之ヲ解スレハ則チ曰ク磨滅ニ差等アレハナリ凸起說ヲ以テスレハ則チ曰ク薄處凸起スレハナリ

第二試驗　再タヒ田ノ字形ノ鎮鍮ヲ同周圍ノ鎮鍮板ニ鑞

着ケシ温度七十度以上ノ水中ニ於テウーート氏ノ合金ヲ以テ田ノ字形ヲ塡メ除々之ヲ冷ヤシテ第二圖(切圖)ノ如キ者ヲ得タリ「ル」ハ即チウート氏合金ニシテ厚サ凡ソ一寸許ナリシ今之ヲ礪石ニ掛ケ研キ上ケテ鏡面トナシ日光ヲ以テ之ヲ試ミシニ純然タル平面鏡ニシテ更ニ田ノ字形ノ顯ハルヽヲカリシ然ルニ之ヲ七十度以上ノ水中ニ投シテウート氏ノ合金ヲ熔解シ去リシヤ鏡面忽チ凸曲セリ又之ヲ日光ニ掛ケ試ミタルニ田ノ字形ノ光像鮮明美麗ニ顯ハレ出テタリ

第二圖



磨滅説ヲ以テ之ヲ解セントスルニ爲メニ緊要ナル壓ノ差ナク從テ磨滅ノ差ナキヲ以テ能ハサルナリ

凸起説ヲ以テスレハ則チ曰ク鎭鍮板ノ研磨セラルヽヤ凸起センヿヲ欲スト雖モ厚キウート氏合金ノ之ニ密着スルアルヲ以テ能ハス是レ其最初平面鏡タリシ所以ナリ合金熔解シ去レルヤ厚サ甚タ小ナルヲ以テ研磨ノ作用初メテ其效ヲ奏スルヲ得是レ鏡面ノ凸起スル所以ナリ背面ニ田ノ字形アル所ハ他處ヨリ厚キヲ以テ凸起モ亦著シカラス是レ光像ノ顯ハルヽ所以ナリ

然ラハ凸起説ハ啻ニ魔鏡ノ背面凸處ニ對スル處凹窪ナル所以ヲ解説シ得ルノミナラス又何故ニ日本鏡ハ常ニ多少ノ凸曲ヲ有スルノ理ヲ明カニスル者ナリ

○

羅馬字會を起すの趣意

外山正一

去る十二月二日に東京大學理學部に於て開きたる羅馬字會に於て爲したる演説發起人總代の考では本日此會に於て羅馬字を以て日本語を綴る會を起す趣意を一通演説せねばならぬとて其演説者にハ某こそ適當の者と集議にて決しました乃(そと)で某か一通此の演説を爲すことに定りました が某の考でハ本日諸君に向ひて此の會を起す趣意を演説するは無要の事と思ひます何ぜと申すに本日此の席に御來會に成りたる諸君は孰も皆此の會を起すことに御同意にて又之れを起すは必要ありと悟られた方々の事であれば殊更に人に聞かずとも既に本會の趣意を御承知の事と思はれますからで御座ります去り乍ら一方に於きてハ發起人總代と諸君と御互の考が果て同じ事ありけりと云ふ事

を見る滿足を諸君に與へねばならず又一方に於きては廣く天下に對して吾々の趣意を示さねばならず尤本會を起す趣意たの本會の規則だのは委員を撰みて之れを作らしめて堂々と天下に向ひ之れを公に致す可き積では御座るが今日諸事の御相談とするに先ちて一通趣意を演說するが適當だと發起人諸氏の認められて乃で某か其の任に充りました今某が演說せむとするものは某が獨りで自分の考を吐でではなく發起人總代の考なりと思ふものを演說いたします特り發起人總代の考なりと思ふ者のみでなく發起人來會諸君一同の考なりと推察せらるゝものを申します

何故羅馬字で國語を綴ることを主張する會を立つるかと問ふは古來我か邦にて用ひ來りました漢字てふものゝ甚不便なるもので晩かれ早かれ廢さなければならず之れを廢する日にゝ之れに換ふるものは羅馬字ほど便利あるものはないさて此の事を信する者は西周先生が本尊樣で先生が明治六年は高論を吐露せられてから信者も日一日か多く今日では實は夥しきことになりましたることで此の人達の考を全國の輿論となして竟に之を押し通さむと思はゞ名々孤立して居らるるよりいつそ協同一致して事と爲さゞ望を遂ぐるをも大いに速かあらむと思はれます以上申し、事が即何故本會を起すかと云ふ問に對する尤簡短なる答て御座りますが之を今少し精しく說きませう先漢字を廢さねばならぬ理由の最著明あるものを擧げますれば

第一に漢字を用ふる間ゝ之れが書讀を學ぶ爲に貴重ある歲月を多く費さねばならぬ其れが爲有益ある事柄を學ぶ時間は非常に減ずる譯あり

第二漢字の讀書を學ぶ爲に歲月を費すことが多い故漢字の行ゐる、間は上下の知識が格外に隔絕せねばならぬことに相成る

第三漢字は「イヂオグラフ」即思想の記號なるに依て其の行はる、間ゝ語を知る許でなく語毎に異りて太甚しく入り組みたる記號をも知らねばならぬ譯あり然れゞ始終二重の骨折をせねばならぬ

第四言語は事物につれるもので昔の樣に何でも支那の眞似をした時にゝ漢字を採り用ひたるゝ勢止む可からざる事ではあれど今日に至りてゝ支那の事物にて新に採り用ふることゝ一つもなく外國より新に採り用ふるも

のと皆歐米諸國の事でゝ御座りませぬゝ然れゞ歐米の言語と事物につれて我々邦に入らなければならぬ譯なるに漢字の行はるゝ間は只其の道を壅塞する許りでなく妙な乙な事があります諸君御覽なさい日用の語でも學術上の語でも至て分り易い語があるのゝ其れゝ態々之れを分り惡い漢語に反譯を分り惡い漢字で之れを表さうとする弊と免れぬでは御座りませぬか第五今日に至りては少しも早く少しも多く支那の臭氣を脫して歐米諸國の文化と受けねばならぬ時で御座る然るゝ支那の臭氣ゝ漢字に固着そるものなるゝ依て漢字を用ふる間ゝ支那の臭氣を脫するとゝ極めて六ヶ敷多く漢字を知てゐれゞ知てゐる程支那風の根性が強くてどうもこうも仕方がないといふとゝ世人の普く知てゐるだろうの漢字の行はるゝ間は是れ亦已むを得ざることで御座りまゝ第六漢字は漢語を表を爲にゝ便利あるかは知りませぬが日本語及び西洋語を表すゝは頗不便あるものです第七漢字を用ふる間は如何あるゝは學術を教授するゝも半分ゝ文字の講釋に終らざるへからざる次第に立至ります尙此の外ゝも漢字を廢さぬゞならぬ理屈は澤山御坐りますが餘り學問上に渉りますから之れを畧しまして次に羅馬字の便利あることを手短く演べませう

第一羅馬字を用ふることゝすると是れまで漢字を讀書する爲に費したる時間は全く之れを有益なる事業を學ぶ爲に用ふるとが出來るやうゝなる利益があります第二羅馬字を用ふる時ゝさまで時を費さなくて書物を讀むとが覺えらるゝ故書物を讀む者の範圍が極めて廣大になる理由です第三羅馬字を用ふる時ゝ書物を讀むとが易くなる故ゝ知識を得るとも亦隨ひて易くなる道理です第四羅馬字は我が邦の言語のやうに多くの音を以て成立つ者を綴るゝ甚だ便利な者で御座ります第五百事百物之を西洋ゝ取る今日に在ては其の事物ゝつれて西洋の語をも取るとが餘程必要な場合も尠なからずと存じますそこで之れと取るゝ羅馬字を用ふるのが至極都合よき事であります第六羅馬字を用ふるとき分らない譯語を新に作り立つるに及ゞと又之れにて譯語新製の弊害を免るゝ事が出來るてはありませぬか第七羅馬字を用ふる時は支那の固陋な

る習俗を脱却して文明開化の新鮮なる空氣を吸ふことが易くあること萬々請合ふ可きことてゝ第八羅馬字を用ふるとゝ我邦の人民中にて將來屹度全權を握るに相違ない部分又我が邦將來の安危を身に繫ぐ部分即之を略言すれゞ西洋語に通する人達ゝ必之れを便利なりと認めるで御座ましやう第九羅馬字を用ふる時にゝ學術と教授するゝ當りて文字の講釋の爲に多分の時間を浪費するやうな弊ゝ全く除き去るゝとゞ出來るで御座ろう、尚此の外に羅馬字を以て綴りたる語ゝ大層つゝまりがよくて一目して解すことが出來又横文字ゝ堅文字より讀み易い抔羅馬字が便利だといふ箇條は澤山あるが大層緻密な學問上の議論になるから之れを置きまして次に今日羅馬字會と起すとゝ一日も猶豫してゝならぬと云ふ特別の理由に説き及ぼす事に仕つらう

今日羅馬字會を起すことゝ一日も猶豫していらぬとい ふ理由ゝ少くも四個あるやうに思ゝれます今一々之を陳べましやう第一つッと見渡すに近來我ゞ邦の人民の中ゝい普通教育の中に英語を加ふる必要を悟りたる者が段々多くありて殊に時事新報、東京横濱毎日新聞、東洋學藝雜誌記者の如きゝ必死とありてそれを主張しました又政府に於かせられても御同感の方々があらせらるゝ者と見えて既ゝ先般學習院の小學科中ゝ英語を加へられ續きて京都府の小學科中へ英語を加ふることゝ許され又候東京女子師範學校中へも英語の專修科を置かれましたが竟ゝ頃ゝ明治十七年十一月の九日とゝ云ふ日にゝ文部卿閣下ゝ小學生徒に英語の讀方、會話、習字、作文等を授くることを許されました箇樣に普通ゝ英語と教授す可しと云ふ論が天下の輿論とあつた上ゝ爾後我ゞの邦に於て英語に通ずる者ゝ其の數實ゝ夥しいことに成りませうして又英語に通する者に取りてゝ羅馬字で邦語を綴つたり又は羅馬字で綴つた邦語を讀んだりすることは何の苦もないとですから今より數年を出ずして羅馬字主義の贊成者は非常に增加することゝ鏡ゝ掛けて見るやうで御坐る然れゝ今日より豫め其の綴り方を定めたり又は字書などを作りて置くのは極めて必要な事と存ぜます第二今日の世の中ゝ成程理論上で羅馬字が一番便利だが贊成者が少からうといふ懸

念があつて或は「かなのくわい」抔を賛成して居る者も多いして見れば今日羅馬字主義ゑ熱心してゐる人々は是非とも羅馬字會を起して廣く同感者を天下に募り其の果に羅馬字主義の人と假名主義の人と何ちら少數なるかを見極めることは甚緊要な事と思いれます。第三仄かゑ承るゑ政府ゑ於きても吾々と感を同くして漢字の不便を歎うせらる、御方もお座すとか其の方々のお考では羅馬字者流だの假名者流だのと云ふて世間ゑ吸鳴る奴原は澤山あるが彼奴等は何故綴方なり文章なり字書なり是れならべ漢字ゑ換へるとゞ出來ると思ふものを立派ゐ組立て政府ゑ相談ゐ來ぬだらうとて私ゑ惜み居らるゝと申すとですこれまた速ゑ羅馬字會を起さなければならぬ一の理由で御坐る。第四羅馬字主義の人が羅馬字會を起して公然と旗揚をなし漢字を廢して仕舞ふて之れゑ換ふるに羅馬字を以てすべきをを唱へなければ全國中如何程の羅馬字者流があるとも皆漢字者流と思はれ漢字廢止論を唱ふる者い特り假名者流に限れるやうに見ゐ德をするものは眞の漢學者流ばりりに成るだらうそこで羅馬字者流は一日も早く旗揚をして假名者流の外にも漢字と廢さうとする者い澤山あるといふことを天下に公にせねべならぬさうせぬ時にい羅馬字者流の罪業深かりと謂はねべならぬ是れ亦羅馬字會を起さねべならぬ一の理由で御坐る

最後に臨みて某い假名者流と羅馬字者流とに一言忠告致さねばならぬ事が御坐る別の儀でも御坐らぬが羅馬字者流は出來る丈假名者流と攻擊せぬやうにし又假名者流は成る可く羅馬字者流に敵對せぬやうにするがよい蓋し羅馬字れ敵は假名ではなく漢字で又假名の敵い羅馬字でなくて是れ亦漢字てい御座らぬか此の漢字といふ强の敵を前に扣ゐ乍ら假名者流と羅馬字者流と喧嘩をするのい同士討と同しとて思慮ある者の當に爲す可からざるとで御坐る假名と羅馬字とが喧嘩をれつばしめて雌雄を決するのい漢字を亡してから後に行る事で先其れまでい同士討に力を費さぬやうにし假名者流い假名の書方抔を少しても改良して成程假名い便利な者だと天下の人に思いれるやうに心掛けねべならす又羅馬字者流も同樣に邦語を綴る最良方法を研究し又は字書抔を作るとと專一に勉めな

けれバならぬ

以上演說致しましたものが即今日羅馬字を以て邦語を綴ることを主張する會を起さなければならぬと云ふ趣意の概畧です先是れ丈を申し上げて置きます

日本第三紀植物化石略說

瑞典國　ドクトル、ナトホルスト述
理學士　横山又次郎　譯

客年瑞典國ノ古生物學家ドクトルナトホルスト氏我地質調査所ニ依頼シテ同所採集ノ第三紀植物化石數十種ヲ本國ニ取寄ラレ爾來其稽査ニ從事セラレシカ遂ニ本年初春ニ至リ氏ハ地質調査長ナウマン氏ニ寄スルニ右化石識別結果ノ概約ヲ以テセリ抑モナトホルスト氏ハ歐洲中屈指ノ古植物學士ニシテ前ニ我肥前州茂木產ノ植物化石ヲ檢定シ爲ニ頗ル世ニ其名ヲ博シタル人ナリ而テ今回氏ヨリ寄送ノ說モ實ニ氏カ數月間ノ精密ナル研究ノ成蹟ニシテ尤モ信憑スヘキモノナリト信スレハ茲ニ其要領ヲ抜摘シ譯シテ以テ本邦地學士ノ參照ニ供セントス

明十七年十月　譯者識

（前略）

余カ日本國ヨリ得タル第三紀植物ハ左ノ十五個所ノ產ニ係レリ

第一　羽後國秋田郡森吉村
第二　羽後國秋田郡萱草村
第三　羽後國仙北郡下檜内村
第四　羽前國田川部油戸村
第五　越後國磐舟郡山熊田村
第六　佐渡國加茂郡關村
第七　磐城國磐前郡高野村
第八　越中國礪波郡金剛寺村
第九　加賀國江沼郡大土村
第十　加賀國能美郡尾小屋村
第十一　越前國大野郡牛ヶ谷村
第十二　信濃國佐久郡北相木村
第十三　武藏國多摩郡留原村
第十四　武藏國多摩郡五日市

第十五　信濃國伊奈郡淺野村

第一　森吉　第二　萱草　第三　下檜内

右三所ノ化石ハ第三紀舊期（オリゴセン或ハミヨセン期ヲ云フ以下倣之）ニ屬スルモノニシテ其内最モ確實ニ識定シ得ヘキ緊切ナル種類ハ Sequoia（セクオイヤ） Langsdorfii（ラングスドルフ井） Brgt.（森吉産）Taxodium（タキソデユム） distichum（ディスチクム） miocenum（ミヨセヌム） Hr.（水松屬ノ一種ニメ）（現今米國ニ生息ス）（萱草産）Comptonia（コンプトニヤ） acutiloba（アクチローバ） Brgt. 楊梅（ヤマモヽ）屬一種（下檜内産）及ヒ Flaneria（フラネラ） Ungeri（ウンゲリ） Ett. 欅（ケヤキ）屬一種（下檜内及萱草産）ノ四個ナリトス

此内宗輩ノ最着目スヘキハ彼ノコンプトニヤ、アクチロバーニシテ本種ハ從來歐羅巴ヲ除キ他處ニ現出セシコトナキモノナリキ他ハ皆歐洲ノ外尚ホ樺太島ノミヨセン層ヨリ出シモノナリトス又下檜内ニハ Yuglans（ユーグランス） cf. acuminata（アクミナタ） Hr. 胡桃（クルミ）屬一種（樺太及アラスカ半嶋ニモ産出ス）及ヒ Carpinus（カルピヌス）イメテ屬及ヒ Fagus（ファグス）（山毛欅（ブナ）屬）ノ碎片及ヒ歐洲第三紀層産ノ Cinnamomum（シンナモーム） Polymorphum（ポリモルフム） Hr.（桂屬一種）ト同種トモ思惟スヘキ葉片ヲ産出セリ然レモ其保存極メテ不完全ニシテ其果テ歐洲産ト同種ナルヤヲ判明シ難キハ余ノ實ニ遺憾ナリトスル所ナリ森吉ニ在テハ又二個ノ新種ヲ現ハセリ即 Fagus（ファグス）（山毛欅屬）ニ類似セル Castanea（カスタニヤ）（栗屬）ノ新種ト Aesculus（エスクルス）（七葉樹（トチノキ）屬）ノ新種ナリトス下檜内ニハ又一種ノ松葉アリ其狀頗ル ミヨセン期ノ Pinus（ピヌス） junonis（ユノニス） Kub 及ヒ Pinus（ピヌス） epios（ヒヒヨス） Hr ニ類似セリ其他確定スヘカラサル葉片亦數個アリトス萱草ニハ前ニ掲シタキソヂユムノ外唯〻數個ノ碎片アルノミ

第四　油戸

本條モ亦舊期ニ屬スヘシ其産ハ Castanea（カスタニヤ）（栗屬）新種（森吉産ニ同シ） Aesculus（エスクルス）（七葉樹屬新種） Alnus（アルヌス） Kefersteinii（ケフヱルスタイニ） Gop.（赤楊（ハンノキ）屬一種）及ヒ一對ノ Abies（アビース）（樅（モミ）屬）ノ葉ナリ

第五　山熊田

本條モ亦舊期ナランカ其産ハ一種ノ Quercus（クヱルクス）（楢屬）ニシテ Quercus（クヱルクス） Lonchitis（ロンキチス） Ung. ニ近似スルモノナリ

第六　佐渡

余ハ本條ノ時期ヲ確言シ能ハスト雖モ多分ブリヨセン期ノモノナラント思考セリ其産ハ即チ Alnus（アルヌス） Viridis（ウヰリヂス） Dc.（カ

ハラハンノキ）及ヒVitis sp.（葡萄屬一種）ノ二種ニシテ前種ハ現今日本ニ棲息スルモノナリ

第七　高野

本條ハ無論舊期ナリトス其產ハ即チSequoia Langsdorfii Brgt. sp. Juglans cf. acuminata Hr.及ヒVitis? sp.ノ三種ナリ

第八　金剛寺

金剛寺產ニ係レル一箇ノ石片ハUlmus（楡屬）新種（コブニレニ類似セルモノ）及ヒCarpinus及ヒQuercusノ葉片ヲ含蓄セリ尤モ此クエルクスハミヨセン期ノQuercus Palaeocerris Sap.ニ稍〻彷彿タルモノトス是ニ由テ觀ルトキハ此ノ岩片ハ第三紀舊期層ヨリ出タリトモ云ベク亦プリヨセン期層ヨリ產セシトモ云フベシ以上ノ植物以テ能ク本條ノ時期ヲ定ムベキニ非ズ

第九　大土

大土ノ石片モ其時期ヲ確定スヘカラサル亦前條ト一般ニシテ其含有セル植種ハカルピヌス及ヒ當時日本ニ棲息スル赤楊（Alnus maritima Nutt.）ニ類セル葉ノ破片ナリトス

第十　尾小屋

余カ得シ三個ノ石片ハTrapa（菱實屬）ノ實ヲ包有セリ然ルニ今余ハ現生ノ菱實ノ種ヲ所持セザルカ故ニ其ノ何種ニ係ルヤヲ知ルニ由ナク隨テ其時期ヲモ判定スルヲ得ス然レトモ後余カ之ヲ現今種ト比較シ得ルノ日ニ方テハ本條ニ就キ聊愚說ヲ述ルヲ得ヘケン

第十一　牛ケ谷

余ハ本條ヲプリヨセン期ト見做スモノナリ其產ハ其狀毫モFagus Sieboldi Endl.（山毛欅）ト辨別スヘカラサル數多ノ葉片ト日本生息ノ種ニ最能ク類似セルMagnolia（木蘭屬）ノ一種ナリ此等ヲ以テ觀ルトキハ本條ノプリヨセレ期ヨリ舊ラサルコト蓋シ疑ヲ容レザルナリ

第十二　北相木

本條ノ草木ハ舊期ニ屬スヘクシテ其樺太嶋及アラスカ國ミヨセン植物ト同時代ナル毫モ疑フヘキニ非ス其產ハ即チ左ノ如シ

Juglans nigella Hr.（胡桃屬ノ一種）

Castania Ungeri Hr.（栗屬ノ一種）
Fagus antipofi Hr.（山毛欅屬ノ一種）
Planera Ungeri Ett.（欅屬ノ一種）
Carpinus grandis Ung.（イヌシデ屬ノ一種）

以上枚擧ノ種類ハ皆既ニアラスカ及樺太ニ產出セシモノトス其他尙ホ Ulmus（榆屬）及ヒ Tilia（菩提樹屬）ノ葉ノ破片アリキ

第十三　留原

本條モ亦舊期ニ屬スルモノニシテ Comptonia ノ一種（全クノ新種ナルカ或ハ又コンプトニヤ、アクチローバノ變種ナルヘシ）Castania Ungeri Hr.（栗屬一種）Carpinus sp（イヌシデ屬一種）Juglans ? sp.（胡桃屬一種）等ヲ產セリ

第十四　五日市

本條モ亦ミヨセン期ヨリ新ナラザルヘシ其產ハ Castania sp（栗屬一種）Juglans cf. acuminata Hr.（胡桃一種）（Taxites（Torreya ?）ノ新種等ナリトス

第十五　淺野

本條ハプリヨセン期ナリトス其產ハ

Ulmus cf. campestris Sm.）sp. ドブミレノ類（茂木產ニ類ス）
Juglans cf. Sieboldiana Maxim. 山胡桃ノ類（茂木產ニ全シ）
Sorbus Lesquereuxi Nath（茂木產ニ全シ）
Liquidambar cf. formosana Hance 楓ノ類（茂木產ニ全シ）
Vitis cf. Labrusca Li. ヤマブドウノ類（茂木產ニ全シ）
Acer sp. モミヂノ一種
Castania sp. 栗屬ノ一種
Carpinus pyramidalis Gop. イヌシデ屬ノ一種

等ニメ而テ淺野層中最モ夥多ナルハカルピヌス、ピラミダリストス但シ本種ハ歐洲ニ在テハミヨセン幷ニプリヨセンノ兩期中ニ出シモノトス

乃チ以上列記セシ十有五個所ヲ其地學的時代ニ依テ分ツトキハ即チ左ノ如シ

森吉	萱草	下檜內	第三紀舊期（ミヨセン期カ或ハオリゴセン期）
油戸	山熊田	高野	
北相木	留原	五日市	
佐渡（?）牛ヶ谷	淺野		第三紀新期（プリヨセン期）
金剛寺	大土	尾小屋	時期未詳

右ニ掲シ日本第三紀舊期植物帶ハ樺太嶋ノ植物帶ト殆ト同準ノモノタルヤ余ハ信シテ疑ハス又曾テレクリユー氏ノ識定セル本洲及蝦夷ノ植物帶モ亦然リトス由是觀之日本ハ首ニ其中央及北部ニ第三紀舊期ノ層ヲ露出シ其南部ニ於テ多ク新層ヲ呈スルモノヽ如シ是レ又實ニ時期更代ノ理ノ然ラシムル所云々(下略)

○

孟子論法ヲ知ラス(前號ノ續)　井上圓了

第四段○次ニ梁惠王問ヲ起シテ寡人國ヲ治ムルニ心ヲ尽スト雖モ隣國ノ民少キヲ加ヘス寡人ノ民多キヲ加ヘザルハ何ンノ理ニ由ルヤト曰ハレタルニ孟子之ニ答ヘタル末段ニ狗彘食人食而不知檢塗有餓莩而不知發人死則曰非我也歲也是何異於刺人而殺之曰非我也兵也王無罪歲斯天下之民至焉トアリ之ヲ要スルニ孟子ノ意ハ人苟モ仁政ヲ行ハハ國トシテ治ラサルハナク家トシテ齊ノハサルハナク歲トメ豐カナラサルハナク民トシテ安カラサルハナシト信スルカ如シ即チ孟子ハ國ノ治亂歲ノ豐凶スヘテ人力ニ屬スルモノト信スルナリ是レ人爲ニ僻スルモノト謂ハザルヘカラス試ニ見ヨ人世ノ事タル人力ノ能ク左右スヘキモノト動カスヘカラサルモノアリ縱ヒ世ニ仁者ノ出ツルアルモ亂臣賊子ノ滅セサルヿアリ仁政ヲ行フモ凶災禍難ノ跡ヲ絶セサルヿアリ故ニ堯ノ世ト雖モ洪水ノ災ヲ免カル能ハス湯武ノ時ト雖モ誅伐ノ勞ナキ能ハス周公ニモ管蔡ノ難アリ孔子ニモ陳蔡ノ危アリ是レ皆人力ノ及ハサル所ニシテ王者聖人ト雖モ之ヲ如何トモスヘカラス是ニ由テ之ヲ推スニ明君仁者ノ世ニアルモ塗ニ餓莩ヲ見ルヿアリ老少其衣食ヲ得ザルヿアルベシ然ルニ孟子ノ言ノ如キハ人爲ノ一偏ヲ論シテ其及ハサル所アルヲ知ラス之ヲ僻説ト呼ハスシテ何ソヤ而シテ孟子之ヲ喩ヘテ人ヲ刺殺シテ我ニアラス兵ナリト曰フニ異ナラスト云フ是レ決シテ比喩ノ其當ヲ得タルモノニアラサルナリ政治上民ヲシテ餓死セシムルト兵ヲ以テ他人ヲ殺スト其別アルハ言ヲ待タスシテ知ルヘシ此ノ如キ性質ノ異ナリタルモノハ互ニ相取リテ以テ比喩トナスヘカラス例ヘハ爰ニ醫士アリ人ニ藥ヲ與ヘテ却テ其病ヲ重クシ遂ニ其人ヲシテ復タ起ササラシムルニ至ルモノアランニ是レ醫士ノ病客ヲ見ルノ

疎ナルト病藥相應セサルトニ由ルト云フモ兵ヲ以テ人ヲ殺スト固ヨリ同日ニ論スヘカラス兵ヲ以テ人ヲ殺スハ全ク其人ノ意志ニ出ツルモノナレモ政治上民ニ害ヲ與フルニ至ルハ必スシモ意志ニ由ルニアラス意志ハ專ラ民ヲ利セント欲シテ却テ民ヲ害スルノ結果ヲ生スルヿアリ猶ホ醫士ノ人命ヲ救助セント欲シテ却テ人ヲ害スルヿアルカ如シ故ニ政害ト兵殺トハ固ヨリ同一ノ比喩ニアラサルナリ且ツ夫レ一箇人ヲ御スルト一國人ヲ處スルトハ大ニ其性質方法ヲ異ニスルモノニシテ二者同一ニ論スヘカラサルノ理モ亦余カ喋々ヲ要セサルナリ凡ソ一國人ヲ處スルニハ其人民總体ヲ益スル甚タ難シ一半ニ利アレハ一半ニ不利ナリ百人ヲ益スレハ十人ヲ害スル蓋シ勢ノ免カルヘカラサル所ナリスヘテ一國ノ上ニ立チテ政事ヲ秉ルモノ唯々人民多數ノ利益ヲ計ルノミ故ニ如何ナル賢明ノ政治家官ニアルモ國中一人ノ餓死スルモノナキニ至ラシムル能ハス是レ又一箇人ヲ以テ一國ヲ例スヘカラサル一證ナリ然レモ余孟子ノ論スル所其意人爲ヲ本トスルニアルヲ知リ又此ノ如ク偏スルニ至ルモ其方便ノ一ナルヲ知ルト雖モ論理上之ヲ一見スレハ不當ノ論ト謂ハサルヘカラス

第五段○次章ニ庖有肥肉廐有肥馬民有飢色野有餓莩此率獸而食人也トアルモ先段ト同シク直接ノ例ヲ以テ間接ノ喩トナスモノナリ是レ又比喩ノ不當ヨリ出テタル過失ニ屬スヘシ庖ニ肥肉アルハ直チニ民ニ飢色アルノ因トナルニアラス其間ニ政治ノ得失君主ノ良惡等ノ事情ナクンハアルヘカラス而シテ獸ヲ率サテ人ヲ食マシムルカ如キハ直接ニ因果相關スルモノナリ凡ソ間接ニ涉ルモノハ自己ノ意志ヲ以テ動カスヘカラサルヿアリ又自ラ毫モ與カリ知ラサルヿアリ或ハ又自ラ善心ヲ以テ爲シタルコトノ却テ惡果ヲ生スルコトアリ然レモ獸ヲ率サテ人ヲ食マシムルカ如キハ其惡心ヨリ生シタル明々掩フベカラス初ニ梁王刃ト政ト異ナルヿナシト曰ハレタルハ已ニ誤レリ政ト刃トノ異同アルハ賢愚ヲ別タスシテ知ルヘシ刃ハ一人ノ意志ヲ以テ自在ニ處スヘシト雖モ政ハ人力ヲ以テ自在ニ動カスヘカラサルナリ故ニ刃ヲ以テ人ヲ殺スハ惡意ニ出タルヨリ外ナシト雖モ政ヲ以テ人ヲ殺スハ善心ニ出ツルヿ往々之レアリ凡ソ比喩ハ一分ヲ示スモノナレモ其事實

ニ應當セサルヒハ眞理ノ基址ヲ動カスニ至ルヲ以テ余爰ニ一言シテ其非ヲ正スナリ

第六段○又次ニ彼陷溺其民王往而征之夫誰與王敵ト云フ一語アリ是レ孟子ノ天下ニ仁者ノ起ルハ同時ニ一人ヨリ多キヿナシト假定シタル論ナラン余恐ル若シ或ハ天下ニ同時ニ二人以上ノ王者起ルヿアランヲ我仁政ヲ脩ムルニ彼亦我ニ倣ヒ同時ニ仁政ヲ修ムルヒハ我往キテ之ヲ征スルモ彼民戰ハスシテ皆我ニ歸服スヘキ理ナシ彼ハ仁ヲ修メテ我ニ競ヒ我ハ民ヲ愛シテ彼ニ競フ所謂仁義ノ競爭ナリ然ルヒハ彼ハ我カ敵ナリ我ハ彼レノ敵ナリ之ヲ稱シテ焉ソ仁者無敵ト謂フヲエンヤ今試ニ戰國ノ諸侯尽ク利ヲステヽ仁義ヲ用フルモノトセンカ然ルヒハ利欲攻伐ノ爭跡ヲ絶スルモ仁義禮讓ノ爭尋テ起ラサルヲエス而シテ其極如何ナル結果ヲ生スヘキヤ余案スルニ其結果優劣ヲ干戈ノ間ニ決スルニ至ルハ勢ノ止ム能ハサル所ナリ然ラサレハ天下一ニ定マルノ期ナカルヘシ然ルニ孟子ハ次章ニ至テ天下定ヲ一ト論シタルハ甚タ怪ムヘシ是レ孟子ノ天下ニ仁者ノ起ルハ一人ヨリ多カルヘカラスト信シ天下ノ民皆其一人ニ歸服スヘシト假定シタルニヨルト雖モ天下ニ必スシモ二人以上ノ仁者ノ同時ニ起ラサルノ理ナシ若シ二人以上同時ニ起ルニ當リテハ天下一ニ歸スヘキ理ナシ若シ之ヲ强テ一ニ歸セント欲セハ兵爭ニヨルヨリ外ナシ兵ニヨラスシテ誰レカ能ク之ヲ一ニセンヤ故ニ以爲ラク仁義ノ極ハ兵爭ナリト以上余カ論スル所ハ孟子ニ反對シテ二人以上ノ仁者ノ同時ニ起ルヿアルヲ假想シタルナリ人或ハ曰ハン仁者ハ世ニ稀有ノモノニシテ一世ニ一人ノ外出ツヘキナシト余之ニ答ヘテ云ハントス一人ノ外出テスト云フモ一假想ナリ二人以上同時ニ出ツルト云フモ一假想ナリ二者中前說獨リ信スヘクシテ後說ハ全ク信スヘカラストナスヘキノ理ナシ故ニ孟子ニ反シテ余カ如ク論スルモ事實上不當ニアラサルナリ

第七段○又其次ニ人ヲ殺スヿヲ嗜マサルモノ能ク天下ヲ一ニセント孟子ノ梁王ニ對スル一語アリ余思ヘラク縱ヒ戰國ノ王ト雖モ蓋シ人ヲ殺スヿヲ嗜ムモノアラサルヘシ孟子ノ爰ニ此語ヲ發シタルハ天下ノ人牧皆戰ヲ好テ民苦ヲ察セサルニ由ルト雖モ戰ヲ好ムト人ヲ殺スヿヲ嗜ムト

ハ固ヨリ同一ニアラス戰ヲ爲スモノ人ヲ殺スヿアルモ人ヲ殺スモノ尽ク戰ヲ爲スニアラス花ハ美ナルヿアルモ美ナルモノ尽ク花ナルニアラス意義ノ廣衍シタルモノト廣衍セザルモノヲ論理上同一ニ見做スヘカラス而シテ其末段ニ至リテ若シ人ヲ殺スヿヲ嗜マサルモノアラハ民ノ之ニ歸スル水ノ下ニ就クカ如シト曰ヘルハ孟子ノ過辨理ノ當ヲ失シタルモノト謂フヘシ何者戰國ノ末ニ當リテハ天下皆攻伐兵爭ヲ以テ賢トナシ合從連衡是レ務ム其際ニ立チテ一國ノ獨立ヲ維持セント欲セハ戰ヲ好マサルモ戰ハサルヲエサル勢アリ人ヲ殺スコトヲ嗜マサルモ殺サヾルヲエサルノ事情アリ斯ク事情止ムヲエスシテ人ヲ殺スニ至ルハ固ヨリ殺スヿヲ嗜ムモノト同日ニ論ヘカラス縱ヒ又一人ノ此間ニ立チテ人ヲ殺サヽルヲ以テ目的トスルモ當時ノ勢弱ハ强ノ食トナルヲ以テ其人到底其目的ヲ達スヘカラサルヲ如何セン爰ニ人アリ兵ヲ以テ我ニ逼ルヤハ我之ニ抗セスシテ甘ンシテ其手ニ死スルモノ果シテ仁者カ之ニ抗シテ身ヲ全フセントスルモノ却テ仁者ナルカ是レ余カ甚タ惑フ所ナリ戰國ノ際列國ノ事情互ニ兵器ヲ以テ他ノ隙ヲ窺フモノヽ如シ我レ之ニ備ヘサレハ忽チ他ノ屬國トナランノミ然ルニ此際ニ立チテ我ハ仁者ナリ我ハ戰ヲ好マスト獨リ唱フルモノアラハ忽チ强ノ屬國トナルヨリ外ナシ焉ソ能ク天下ノ民沛然トシテ之ニ歸スルアランヤ

第八段○齊宣王ト孟子ノ問答中ニ今恩足以及禽獸而功不至於百姓者獨何與然則一羽之不舉爲不用力焉輿薪之不見爲不用明焉百姓之不見保爲不用恩焉故王之不王不爲也非不能也ト曰ヘルアリ是言實ニ怪ムヘク又笑フヘシ何者孟子以爲ラク仁禽獸ニ及ンテ恩百姓ニ加ハラサルハ宛モ力能ク百鈞ヲ擧ケテ一羽ヲ擧クル能ハサルト同一般ナリト此論實事ト比喩ト難易相反對スル過失アリ百鈞ヲ擧クルハ難ナリ一羽ヲ擧クルハ易ナリ仁禽獸ニ及フハ易ナリ恩百姓ニ及フハ難ナリ然ルニ孟子ハ難ヲ以テ易ニ比シ易ヲ以テ難ニ比セリ之ヲ例スルニ難ノ易ニ於ケルハ易ノ難ニ於ケルカ如シト云フニ同シ其論理ノ不正ナル多言ヲ要セスシテ明カナリ若シ果シテ孟子ノ謂フ所眞ナラハ我レ一禽ヲ制スルノ力アルヲ以テ萬民ヲ制スルノ力アリ我レ一

獸ヲ捕フルノ力アルヲ以テ天下ヲ取ルノ力アリト云ハサルヘカラス而シテ我レ能ク貪獸ヲ制シテ天下ヲ制セサルハ其實能ハザルニアラス爲サヽルナリト云ハサルヘカラス然レ𪜈奈何セン力ヲ窮メテ之ヲ爲スモ爲シ能ハサルヲ是レ他ナシ天下ヲ治ムルハ難ク貪獸ヲ制スルハ易キヲ以テナリ

第九段○梁惠王篇ノ末段ニ至リ孟子滕文公ニ對フル語中ニ苟爲善後世子孫必有王者矣ト曰ヘルアリ是レ所謂積善之家有餘慶ト同一義ナリ而シテ爰ニ必有王者矣ト斷言シタルハ假定臆想ノ甚キモノト謂ハサルヘカラス孟子ハ如何ナル經驗ヲ以テ此格言ヲ定メタルヤ余案スルニ殷湯周文ノ血統ニツイテ知ルヨリ外ナシ然レ𪜈世間善ヲ爲セシモノ唯二王ニ限ルニアラス而シテ其者ノ子孫未タ王者トナラサルモノ幾人アルヲ知ラス是レ何レノ時ニ餘慶ノ發スヘキモノナルヤ且ツ其發スルニ前後遲速ノ差異アルハ何ソノ理ニヨルヤ創業者ノ善心德行ノ多少ニヨルカ善行少フシテ餘福ノ來ル「却テ速カニシテ且ツ著シキモノアルハ何ソヤ今殷周ノ遠祖ノ如キハ善行アリテ其子孫ニ王者起ルト云フモ其中世數代ノ間ハ微々トシテ世ニ顯ハレサル時アルハ何ソヤ其微々タル時ハ餘祿ノ發シタルモノト云フヨリ外ナシ然ラハ數世ノ後一時ニ天下ニ名ヲ立ツルモノアルモ之ヲ前數世ノ微々タル時ニ比スレハ屈伸相伴ヒ禍福相償フモノニシテ敢テ祖先ノ餘慶ト稱スルニ足ラス或ハ又湯武ハ其德至レルヲ以テ餘慶ヲ數世ニ傳ヘシト云フモ湯武以後王政漸々衰ヘ遂ニ祀ヲ絕ツニ至ルカ如キハ是レ又積善餘慶ノ格言ニ應合スト謂ヒ難シ然ルニ孟子ハ殷周二代ノ例ニ考ヘテ善ヲ爲スノ家ニハ必ス王者起ルト斷言シタルヲ以テタトヒ其例理ニ合スルモノト許スモ一二ノ例ヲ以テ千百ノ規則ト定ムル過失ヲ免レス是レ固ヨリ歸納ノ正法ニアラサルナリ

第十段○次章ニ滕文公力ヲ竭クシテ大國ニ事フルモ免カルヿナキヿヱス之ヲ如何シテ可ナラント問ハレタルニ孟子ハ大王ノ狄人ニ侵サレタル時ノ例ヲ引キテ答ヘラレタリト雖モ是レ又不適當ノ例ト謂ハサルヘカラス滕公若シ大王ト其事情ヲ同フシ其德行ヲ同フセハ則チ可ナリ然ルニ大王ノ德行ナク大王ノ事情ナクシテ自國ヲ去ルモ恐クハ一

人ノ之ニ從フモノアラサルヘシ

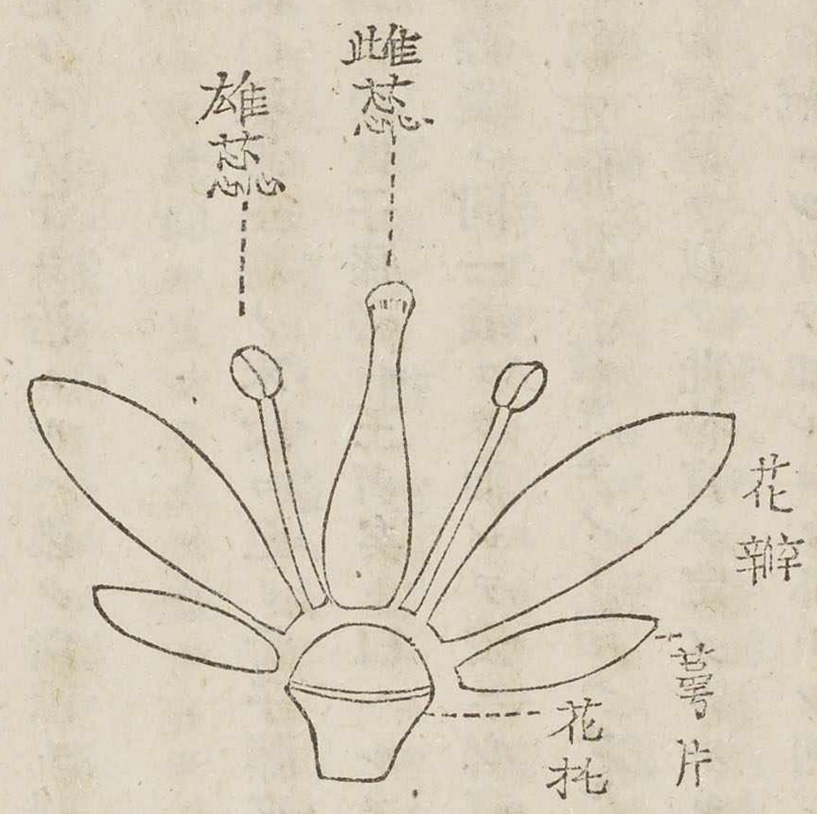
理醫學講談會筆記

矢田部良吉君述

花ト蟲トノ關係

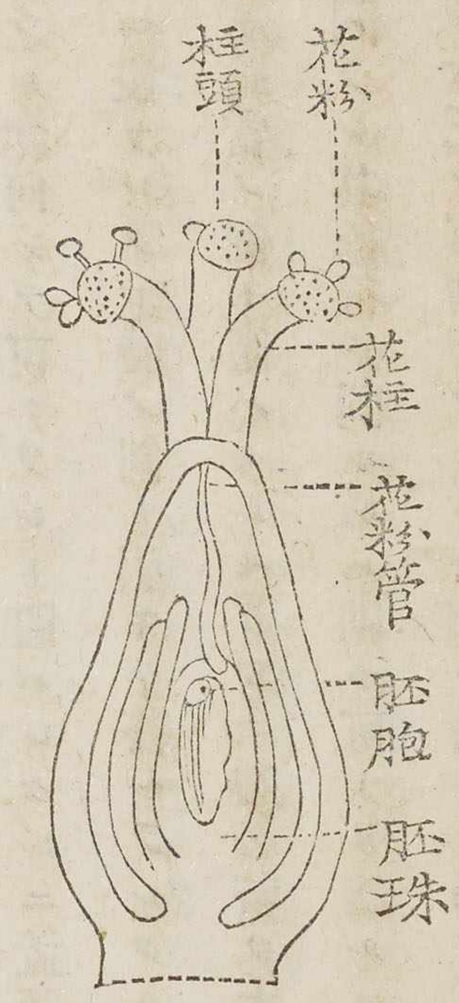
諸君ノ知ラルヽ如ク植物ノ花ノ用ハ實ヲ結ヒテ種類ヲ繼續增加スルニ在リ完全ナル花ノ諸部ハ今此ニ略圖（第一圖）ヲ示スカ如ク最下ニ花托アリ次ニ萼片數個アリテ萼ヲナシ次ニ花瓣數個アリテ花冠ヲ成シ次ニ雄蕊アリ最上部ニ雌蕊アリ雌蕊ノ下部ニ子房ト稱スル腔穴樣ノ處アリテ其中ニ胚珠ト云フ小ナル一躰アリ（第二圖）又雄蕊ノ上部ヲ葯ト稱シ囊狀ヲナシ其中ニ花粉ト云フ粒狀ノ小躰多クアリ植物ノ實ヲ結ヒ種子ヲ生スルニハ花粉雌蕊ノ上部ナル柱頭ト稱スル處ニ落チテ此ニ止マリ花粉管ト云フ長キ管狀ノ躰ヲ生シ此躰子房ノ上ニアル花柱ト云フ部ヲ通シ終ニ子房中ニ入リ其一端胚珠ニ達シ胚珠中ノ胚胞ト云フ極メテ小ナル一躰ニ觸レ胚胞ノ物質ト花粉管中ノ物質ト合同シテ胚胞ハ次第ニ生長シ種子中ノ胚ト稱スル一躰ト成ルナリ胚ハ梅桃等ノ種子中ニ在ル稍ヤ白色ノ仁又ソラマメ等ノ中ニアル青色ノ部是ナリ此部ハ即チ小ナル植物ニシテ其生長スル時ハ一個ノ獨立植物ト成ルナリ花ノ用ハ此胚ヲ生スルニ在ルナリ

第一圖



前述ノ如クナルカ故ニ雌雄兩蕊ハ花ノ緊要機關ト稱シ如何ナル花ト雖モ雌雄兩蕊ノ內何レヲカ有セサレハ花ノ持殊ノ効用ヲ成ス能ハス花冠ト萼トハ保護機關ト稱シ花ノ內部ノ機關即チ雌雄蕊ヲ保護スルハ其効用ノ一ナレ𪜈其外ニ尙甚緊要ナル効用アリ後ニ至リテ明カナルヘシ花ノ

第二圖　蕎麥ノ雌蕊



種類ニ依リテハ保護機關ナキモノモアリ又保護機關ノミヲ以テ成ルモノモアルナリ

諸君若シ庭園或ハ路傍ノ花ヲ採リテ其内部ヲ掩閲サルヽナレハ多クハ雌雄両蕊ヲ具シ又種々ノ形狀及ヒ種々ノ彩色ヲ呈スル保護機關ヲ具スルヲ知ラルヽナルヘシ去レハ一花中ノ雄蕊ヨリ生シタル花粉同花中ノ雌蕊ノ柱頭ニ附着シテ花粉管ヲ生シ子房中ノ胚珠ヲシテ種子タラシムルナルヘシト想像セラルヽナラン然ルニ稍〻不思議ノ樣ニヨハ見ユレトモ同一花中ニ於テ其花粉ノ其柱頭ニ達スルヿ即チ花粉注射ト云フ作用ヲナシテ胚珠ヲシテ種子ト成ルノ性質ヲ得サシムルヿ即チ授精ト云フ作用ヲ爲スヿハ頗ル罕ナリ何カ之ニハ仔細ノアルヿナラントテ植物學者ハ之ヲ研究セシカ竟ニ果シテ其植物增殖ノ爲ニ大ニ益アルヿヲ發見シタリ英國ノ有名ナル生物學士ダルウヰン氏ハ種々ニ工風シテ一花ノ柱頭ニ他花ノ花粉ノ來ラザル樣ニ爲シテ種々ノ植物ヲ以テ試驗セシガ即チ短カク之ヲ云ヘバ相互ノ授精ヲ防ギテ自己ノ授精ノミヲ爲サシメタルニ此ノ如クシテ生シタル種子ヨリ發スル植物ハ相互ノ授精ニ依テ生シタル種子ヨリ發シタル植物ノ如ク盛壯ナルヲ得ザルヿヲ發見セリ加之一花中ノ花粉ヲ同花中ノ柱頭ニ付スルモ種子ヲ生セシムル能ハサルヿ間〻之アリ甚シキニ至リテハ花粉毒物ノ如キ作用ヲ爲シテ雌蕊之ガタメニ稠萎スルヿモアリタリ故ニダルウヰン氏ハ曾テ凡ソ生物ハ永久自己ノ授精ノミヲ爲サヽルモノナリト云ハレシヿアリ

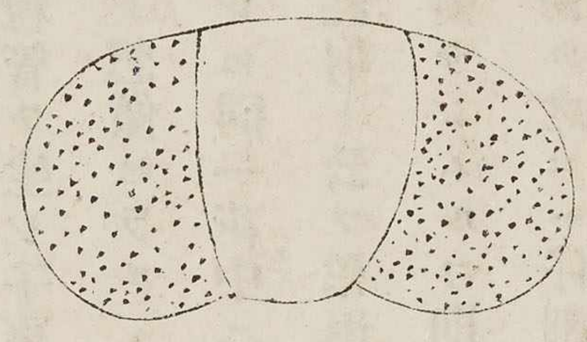
植物授精ノ模樣此ノ如クナルカ故ニ花ハ種々ノ方法ニテ相互ニ授精スルヲ得ルナリ然レトモ花ノ授精ノ媒助ヲ爲スモノヽ中主タルモノハ風及ヒ蟲ナリ水及ヒ鳥ノ如キハ媒助ヲ爲スヿ少ナシ故ニデルピノート云フ植物學士ハ花ヲ區別シテ二類トナセリ其一ヲ風媒花ト稱シ其二ヲ蟲媒花ト稱セリ

風媒花ハ美麗ナル色ヲ有セス香氣ヲ放タス又花蜜ト稱シ甘味ナル汁液ヲ分泌スルヿナシ且ツ雄花雌花分別スルモノ多シ即チ雄蕊ノミヲ具スル花ト雌蕊ノミヲ具スル花トアリ一花両蕊ヲ具セス其花粉甚タ輕クシテ容易ニ風ノ爲ニ吹送ラレ其量モ亦甚タ多シ開花ノ時ハ花粉四方ニ散シ

テ森林近傍ノ空氣中ニ充滿シ雨後ハ湖池等ノ緣邊ニ集合シテ黃色ノ層ヲナスヿ往々之アリ過日我友人某氏其庭中ノ凹處ニテ發見シタル黃色ノ泥ヲ余ニ示シタリ余之ヲ一目シテ曰ク君若シ之ヲ顯微鏡下ニ檢スレハ三胞連續スルカ如キ形ノ小躰ヲ多ク見ルヘシト余其畧圖(第三圖)ヲ畫キテ之ヲ示シタリ友人泥ヲ顯微鏡下ニ檢シタルニ果シテ余カ言ノ如クナリキ之レ他ナシ余ハ其松柏類ニ屬スル樹木ノ花粉ナルヿヲ知レハナリ此等ハ渾テ風媒植物ナルカ故ニ多量ノ花粉ヲ生シ雨ノ爲ニ地上ニ墜落シテ凹處ニ集マリ黃色ノ層ヲ成シタルナリ風媒花ニ於テハ花粉ノ柱頭(松柏類ニテハ胚珠)ニ達スルハ風ノ爲ニ吹送ラルヽニ依ルカ故ニ非常ニ多量ノ花粉ヲ生ゼザレバ授精スルヿ能ハサル理ナリ此類ノ花ハ甚ダ不經濟ナルヿ知ルベシ松、樅其他ノ松柏類、槲、栗其他ノ茶荑樹類、大麻カナムグラ等ハ單性花ヲ有スル風媒植物ナリ車前、酸摸、禾本類、莎草類ノ

第三圖

松ノ花粉



如キハ両性花ヲ有スル風媒植物ナリ車前禾本類等ノ雄蕊ハ長クシテ花外ニ突出シ風ノ爲ニ搖撼ス其雌蕊モ亦柱頭長クシテ毛茸ヲ具シ或ハ羽毛狀(第四圖)ヲ爲ス是レ其外面ヲ擴大シテ風ノ爲ニ吹送ラレタル花粉ヲ受クルニ便ナランカ爲ナリ

第四圖

小麥ノ雌蕊

蟲媒花ハ多クハ美麗ナル色ヲ有シ或ハ香氣ヲ放ヲ或ハ花蜜ヲ分泌ス或ハ艶色香氣花蜜共ニ存スルモノアリ花ニ此ノ如キ性質アルハ蟲ヲ誘導センカ爲ナリ蟲ハ花粉及ヒ花蜜ヲ以テ食トナスカ故ニ花ノ色ト香トノ好キヲ慕ヒ來リテ其食ヲ得ルナリ蟲ノ香氣ヲ分別シ得ルハ諸君ノ知ラル

、所ニテ臭キモノニ蠅止マルト云フ諺アルヲ以テモ明カナリ又蟲ノ色ヲ分別シ得ルヤ否ヤニ至リテハロボック氏ト云フ生物學士ノ試驗ニ依リテ明カナリ今氏カ試驗ノ一ヲ擧ケン氏ハ硝子片ノ上ニ蜜ヲ置キ又之ヲ藍色ノ紙上ニ置キタルニ暫クシテ蜜蜂之ヲ知リ來リテ蜜ヲ嘗メタリ去リテハ復來リ去リテハ復來ルヿ數回ニシテ蜂ノ藍色ヲ覺知シタルナルヘシト思ヒシ時又橙色ノ紙上ニ前ノ如ク蜜ヲ載セ凡一尺許離レタル處ニ之ヲ置キ蜂ノ去リタル時ヲ窺ヒ藍色紙ト橙色紙トヲ置キ換ヘ蜜ハ前ノ儘ニシテ置キシニ蜂歸リ來リテ舊ノ處即チ今橙色紙ノアル所ニ止マラントシ暫ク躊躇シタレモ止マラスシテ藍色紙ノ方ニ行キタリ此他之ニ類スル試驗ニ依テ蜂ハ色ヲ識別シ得ルヿ凝ナシ又蟲媒花ノ花粉ハ少シタ粘質ヲ帶ヒ容易ニ風ノ爲ニ吹キ去ラレスト雖モ蟲ノ頭、躰、脚等ニ能ク附着ス蘭科及ヒ白前科ノ花ニ至リテハ花粉塊ヲ爲シテ相粘着シ粉狀ヲナサス故ニ塊ノマヽ蟲躰ニ附着スルモノナリ

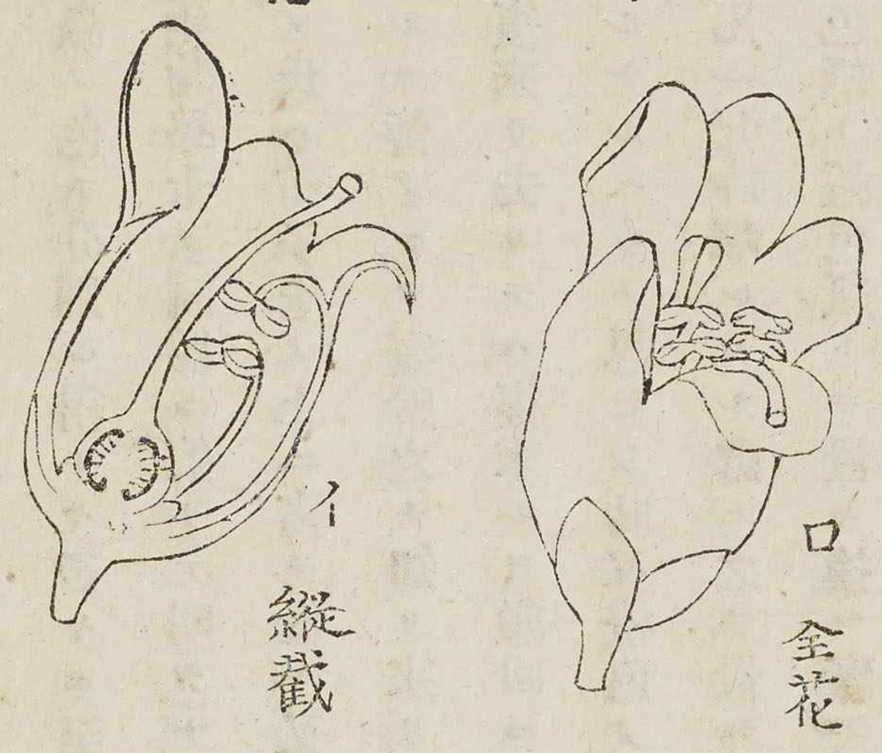
花ノ形狀及ビ其他ノ性質ノ種々ナルハ蟲ノ來ルニ便ナランガ爲ナリ而シテ其特殊ノ形狀ハ皆相互ノ授精ヲ爲スニ適當ナルモノナリ單性花ニ於テハ相互ノ授精ハ素ヨリ避ク可カラスト雖モ兩性花ニ於テハ特別ノ裝置アルヲ以テ自己ノ授精ヲ禦クモノナリ又蟲類ノ口部モ種々ノ形狀ヲナシ能ク花ノ形狀ニ適當シテ其食ヲ花中ヨリ取ルニ甚タ便ナルモノナリ某種ノ蟲ハ其口部某種ノ花ニ適當シ他ノ花ニハ適當セサルヿ間〻之アリ此ノ如キ場合ニ於テハ蟲ト植物トノ關係甚ダ親密ニシテ其蟲ハ其植物ナカリセハ食ヲ得ル能ハズ其植物ハ其蟲ナカリセハ授精ヲ爲ス能ハスシテ存亡ヲ共ニスルヿ疑フヘクモアラズ今一例ヲ擧クレハニカラグワト云フ地ニベニバナインゲント稱スル草ヲ移植セシニ適當ナル蜂ナキカ故ニ種子ヲ生スルヿ絶テナシト云フ又蟲類ノ脚及ビ腹部ノ毛草ハ花粉能ク之ニ附着スルガ故ニ蟲類カ花粉ヲ甲花ヨリ乙花ニ輸送スルニ欠ク可ラサルモノトス

開花ノ時刻ハ各種植物ニ於テ異ナリ是亦蟲類ニ關係アルヿナリ例ヘハ蒲公英ハ晝間開花スレモ日ノ傾ク時或ハ雨天ナレハ開花セス是レ其花粉ヲ空シク費スヿナカランカ爲ナリ如何トナレハ此花ニハ大陽ノ盛ニ照ス間ノミ媒助

ヲ爲ス蟲ノ來ルモノナレハナリ又ッキミサウノ如キハ夜間ノミ開花ス此等ノ花ニ媒助蟲ノ來ルハ夜間ノミナレハナリ

花ノ雌雄兩蕊ハ必スシモ同時ニ成熟スルモノニ非ズ未ダ柱頭ノ花粉ヲ受ルニ適當ナラザル時葯ノ早ク既ニ熟シテ花粉ヲ吐出シ尽ス花アリ之ヲ雄蕊早熟花ト云フ又葯ノ成熟シテ花粉ヲ吐出スル前早ク既ニ柱頭ノ成熟シテ花粉ヲ受ルニ適シ葯ノ成熟スル特ハ柱頭既ニ稠萎スル花アリ之ヲ雌蕊早熟花ト云フ

第五圖　玄參ノ花

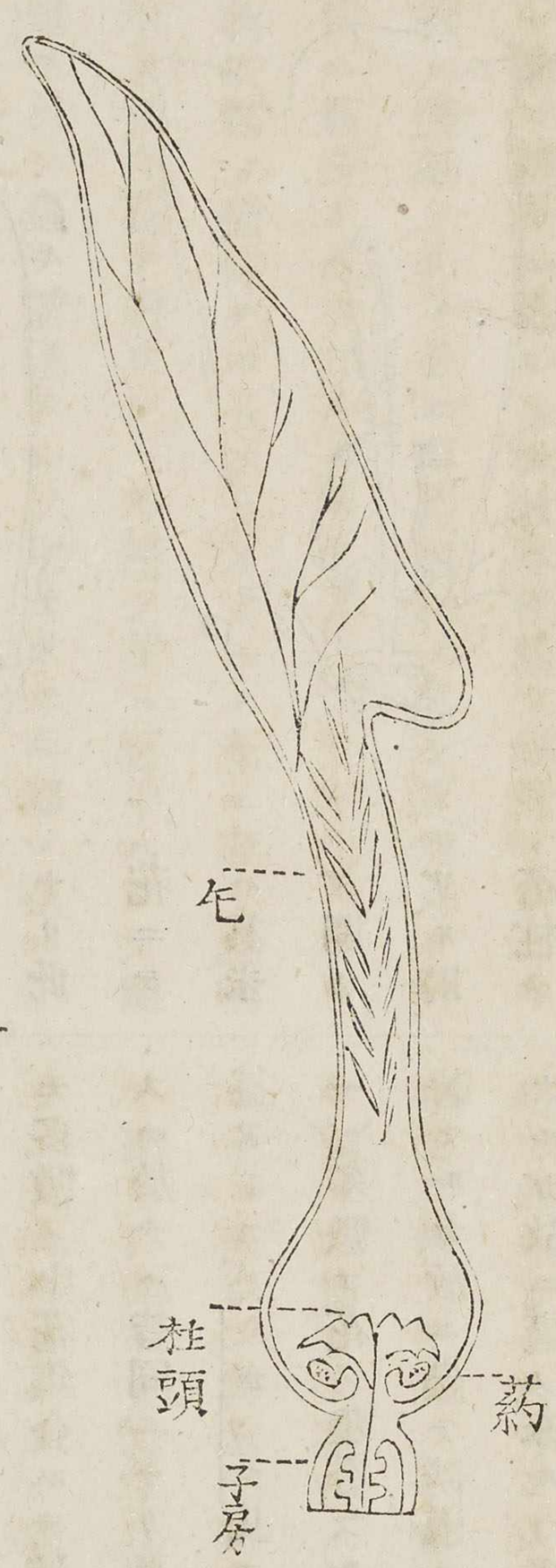


雌蕊早熟花ハ雄蕊早熟花ノ如ク多カラズト雖モ玄參ノ如キハ其例ナリ玄參ノ花（第五圖）ハ不齊整ナル單辨花冠ヲ有シ蜂ノ媒助ニ依リテ授精スル花ナリ此花ノ前方ニ扁平ナル部突出シ、蜂飛來リテ此處ニ止マルナリ其始メテ開キシトキハ花柱突出シテ外部ヨリ見ルヲ得ベシト雖モ葯ハ尙短カク花冠中ニ在リテ見ルヲ得ズ（第五圖イ）一二日經過スルノ後花柱稠萎シテ前方ニ垂レ柱頭乾燥シテ花粉ヲ受ルニ適セズ此時葯ハ伸長シ花冠外ニ突出シ前ニ花柱ノ在リタル位置ヲ占ム（第五圖ロ）偖花冠内ノ下部ヨリ分泌スル所ノ花蜜ヲ得ンガ爲ニ來ル蜂ガ開キテ一二日ヲ經タル花上ニ止マレバ花粉其躰ニ附着セザルヲ得ズ又此蜂ガ始メテ開キタル花上ニ止マレバ其帶ビタル花粉ヲ柱頭ニ附セザルヲ得ズ但シ柱頭ハ粘質ニシテ花粉ノ附着ニ甚ダ適當ナルモノナリ此ノ如ク雌雄兩蕊ガ成熟ノ時ヲ異ニスル花ニ於テハ自己ノ授精ハ爲シ難キヿ明瞭ナリ

馬兜鈴屬モ亦雌蕊早熟花ヲ有ス此花ハ（第六圖）長筒狀ヲ成シテ下部膨脹ス筒中ニ細毛アリテ其尖點皆筒ノ下方ニ向フ小蠅花蜜ヲ得ンガ爲ニ筒中ニ入ル然ルニ其入ルヿハ甚ダ容易ナレモ出ルヿハ筒中ノ毛ノ下方ニ向フヲ以テ甚タ難シ然レモ開花ノ初メ早ク熟シタル柱頭ノ漸々萎縮スルニ從ヒ葯成熟シテ花粉ヲ吐出スル時花筒中ノ毛ハ萎縮

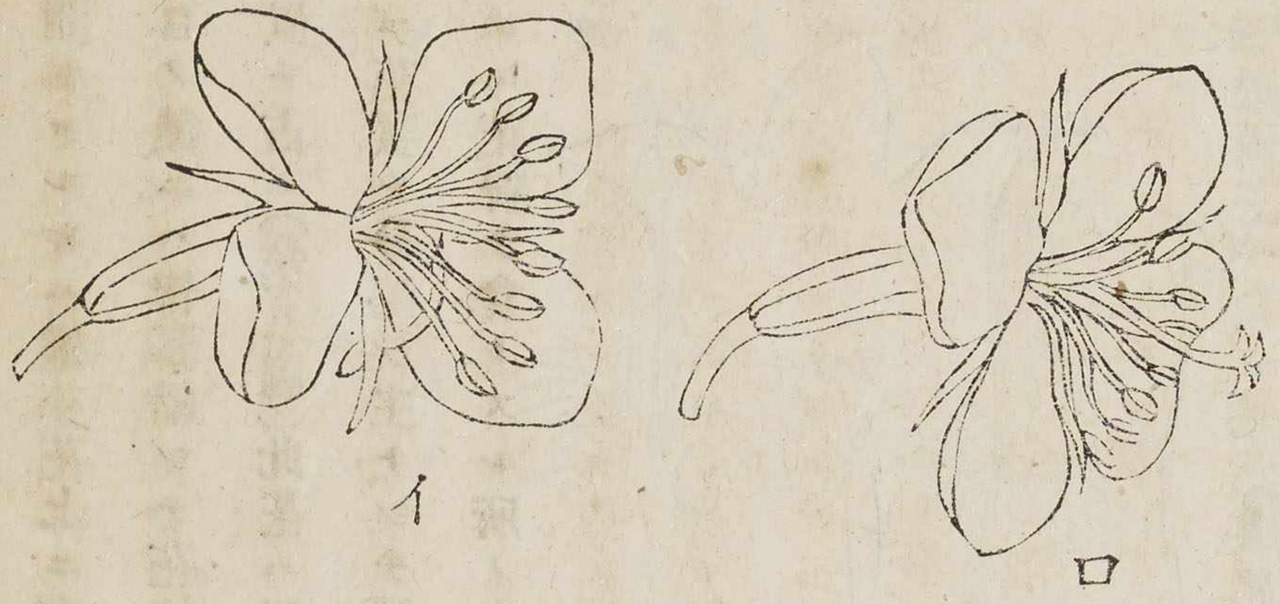
第六圖

洋種馬兜鈴花ノ縱截



第七圖

ヤナギサウノ花

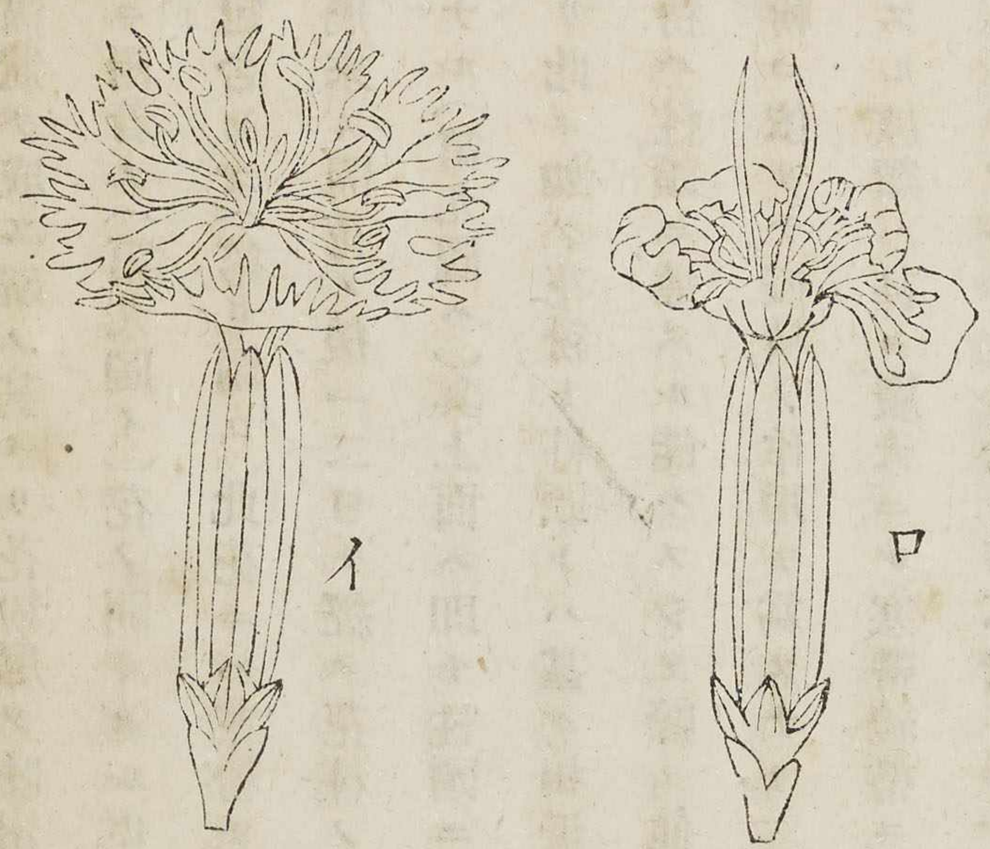


シテ下垂スルカ故ニ前ニ筒中ニ入リタル小蠅ハ花外ニ出ルヲ得此小蠅又他ノ馬兜鈴花中ニ至ル時ハ其帶ル所ノ花粉ヲ柱頭ニ附着セシム

雄蕊早熟花ハ甚ダ多シ今其一二例ヲ擧ゲンヤナギサウハ我邦ノ山々ニ多クシテ美ナル紅色花ヲ開ク草ナリ此花ノ始テ開綻シタルトキハ雄蕊既ニ熟スト雖モ花柱未タ成熟セスシテ下方ニ彎曲ス（第七圖イ）二三日ノ後葯其花粉ヲ吐キ尽スノ後花柱伸長シテ上方ニ向ヒ柱頭開發シテ四片ト成ル（第七圖ロ）故ニ始テ開キタル花ニ止マリタル蜂カ開キテ兩三日ヲ經過シタル花ニ來ルトキハ其帶ル所ノ花粉ヲ柱頭ニ附セザルヲ得ザルナリ

第八圖

アンジャベルノ花

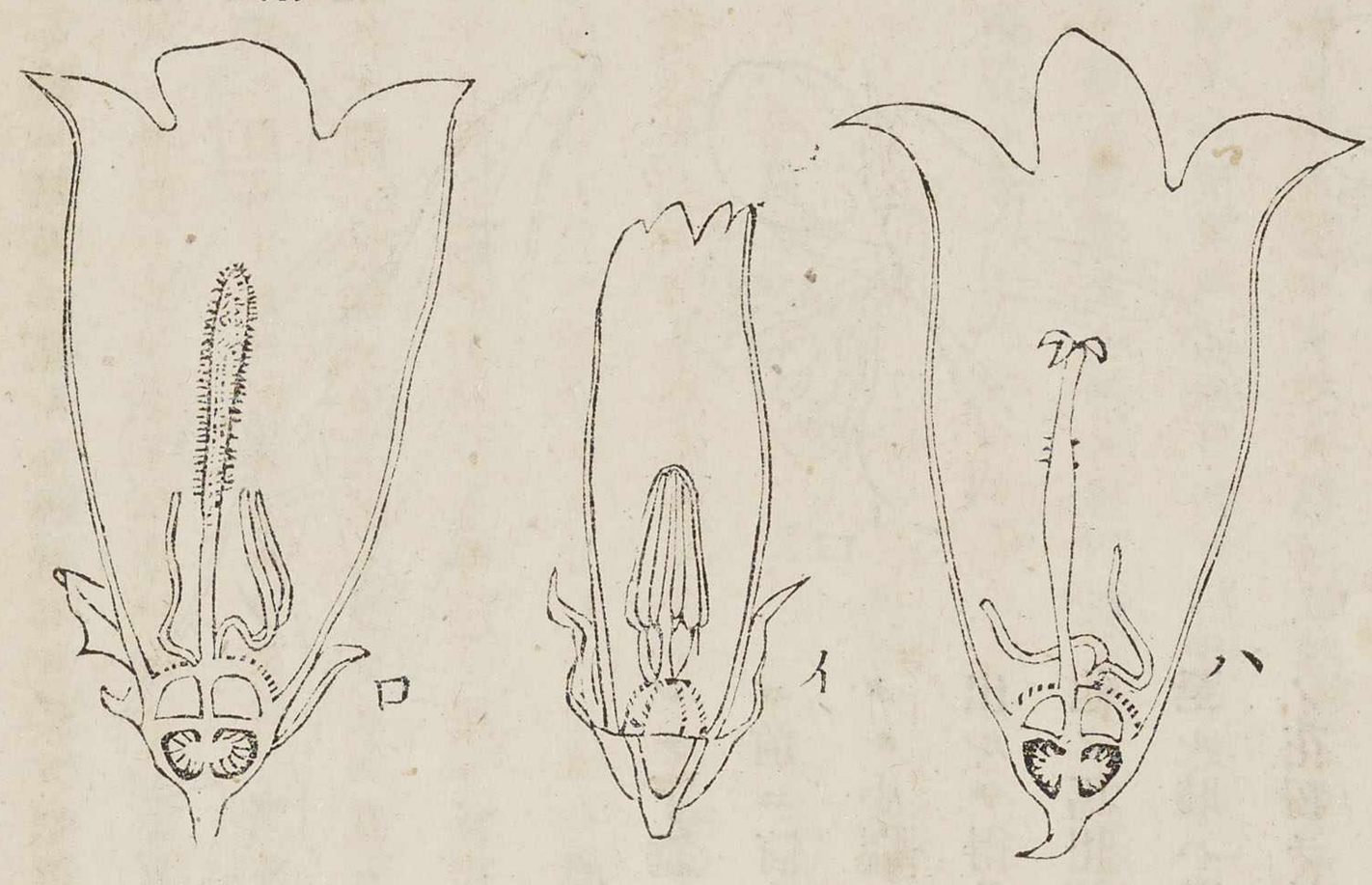


アンジャベルモ亦雄蕊早熟ノ花ニテ

其始メテ開キタル片ハ雄蕊花上ニ突起スト雖モ（第八圖イ）一二日ノ後ニハ皆萎縮シテ花柱突出シ前ニ雄蕊ノ在リタル位置ヲ占ム（第八圖）此花ハ雄蕊ノ基脚ト子房ノ基脚トノ間ニ花蜜ヲ分泌シ主トシテ嘴ノ長キ蟲ナル蝶類ノ來ル花ナレ𪜈花粉ヲ食トスル所ノ蟲モ亦來ルナリ

第九圖

ホタルブクロノ花ノ縱截



ホタルブクロニ於テハ花中機關ノ裝置甚ダ特異ナリ此花ニテハ其未ダ開カザル時花柱ヲ圍繞シテ筒狀ヲ成ス所ノ葯ヨリ花粉尽ク吐出シテ花柱上部ノ毛茸ニ附着ス（第九圖イ）花ノ開キタル片ハ葯萎縮シテ花粉ヲ包含セズ（第九圖ロ）此花ニハ花粉ヲ食トナス所ノ蜂常ニ飛來ス開花ノ後一二日ヲ經テ花柱ノ上部開發シテ三片トナル（第九圖ハ）其上面ハ即チ柱頭ニシテ花粉ヲ受ル處ナリ此ノ如ク花粉ト柱頭トハ甚タ相近接スト雖モ自己ノ花粉ハ柱頭ニ達スル能ハスシテ蜂ノ他花ヨリ携帶シタル花粉ニ依リテ授精ノ作用ヲ爲スナリ

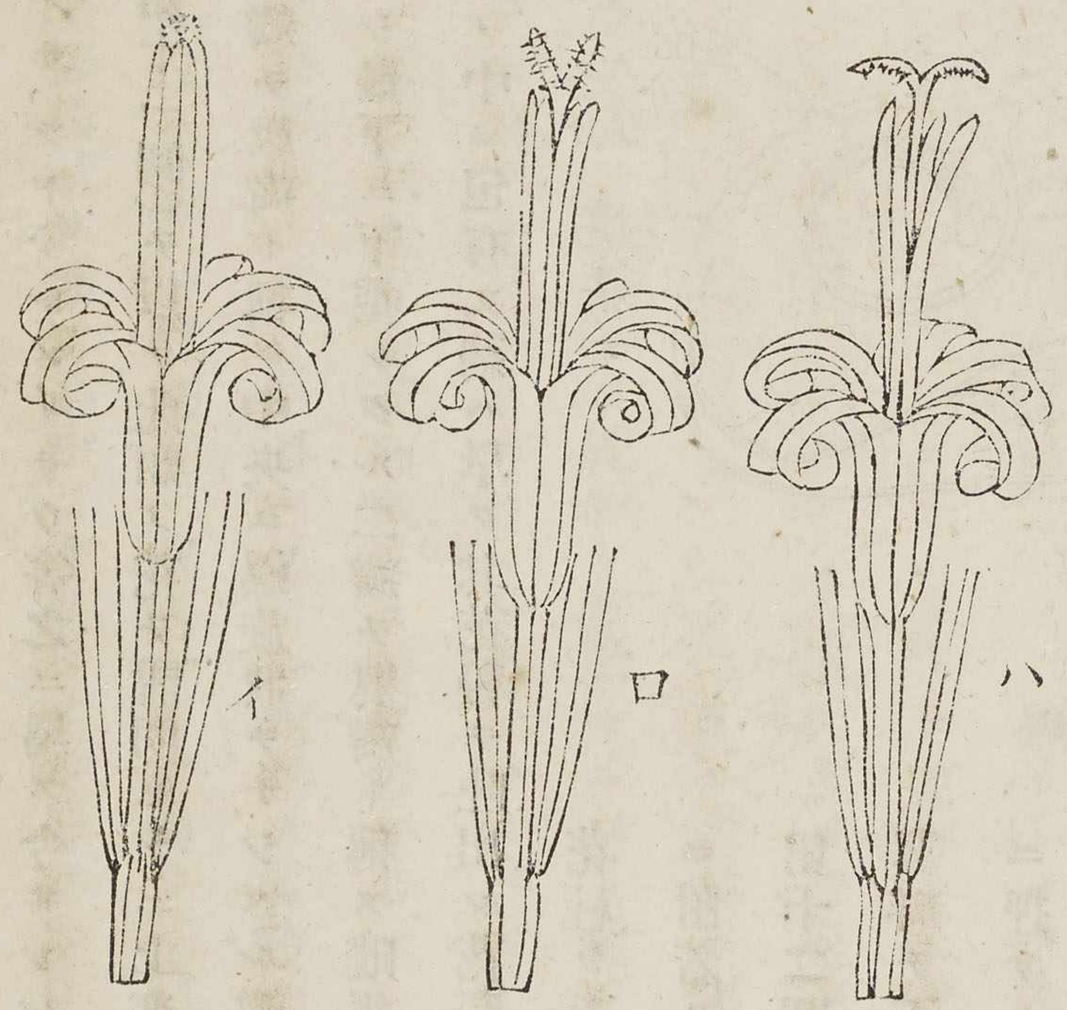
菊科ト稱スル族類ハ甚タ廣大ニシテ寒帶熱帶ヲ問ハス地球上處トシテアラザルナシト云フモ不當ナラザル程ナリ其種ノ數ハ殆ド一萬モアリテ菊、薊、紫菀、蒲公英、ノゲシ其他種々ノ草之ニ屬ス此科ノ植物ノ花ハ各〻小異アリト雖モ多數ノ小花集合シテ植物家カ所謂小頭花ナル花叢ヲナスニ於テハ皆同一ナリ此ノ如キ排置ハ相互ノ授精ノ爲ニ益アル｜ハロボック氏カ曾テ說カレタル所ナリ即チ（第一）多數ノ花ノ集合スル片ハ各花相離ルヽヨリモ一層顯著ナルカ故ニ蟲ヲ誘導スル｜多シ（第二）花蜜ヲ得ルニ便ナルガ故ニ蟲ノ來ル｜多シ（第三）蟲ノ此ノ如キ集合花ニ

來ルトキハ一時ニ數花ニ觸ルヽカ故ニ授精ノ媒助ヲ爲スヿ多シ右三樣ノ便益アルカ故ニ菊科植物ノ甚シク增殖シテ其種ノ非常ニ夥多ナルヿ知ルヘキノミ

今此科植物授精ノ摸樣ヲハンクワイサウノ花ニ就テ說明スヘシ此草ノ集合花ヲ檢スレハ外邊ノ花ハ扁平ニシテ顯著ナル花冠ヲ具シ蟲ヲ誘導スルノ用ヲナス內部ノ花ハ筒狀ニシテ雌雄兩蕊ヲ具シ雄蕊集マリテ筒狀ヲナシ花柱ヲ圍繞ス花柱未タ全ク伸長セスシテ雄蕊筒ノ中ニ在ルトキ葯既ニ成熟シテ內方ニ花粉ヲ吐出シ花柱ノ漸ク長伸スルニ從ヒ花粉其上部ノ毛茸ニ附着シテ雄蕊筒ノ外ニ出ツ（第十圖イ）而シテ花柱ノ全ク伸長シテ高ク雄蕊筒外ニ突出スルニ至レハ其上部開キテ二片トナル（第十圖ロ）其上面ハ即チ柱頭ナリ（第十圖ハ）故ニ新開ノ花ニ止マリテ花粉ヲ躰上ニ携帶シタル蟲又舊開ノ花ニ止マルトキハ其花粉ヲ柱頭ニ附スルヿ明カナリ

第十圖

ハンクワイサウノ花



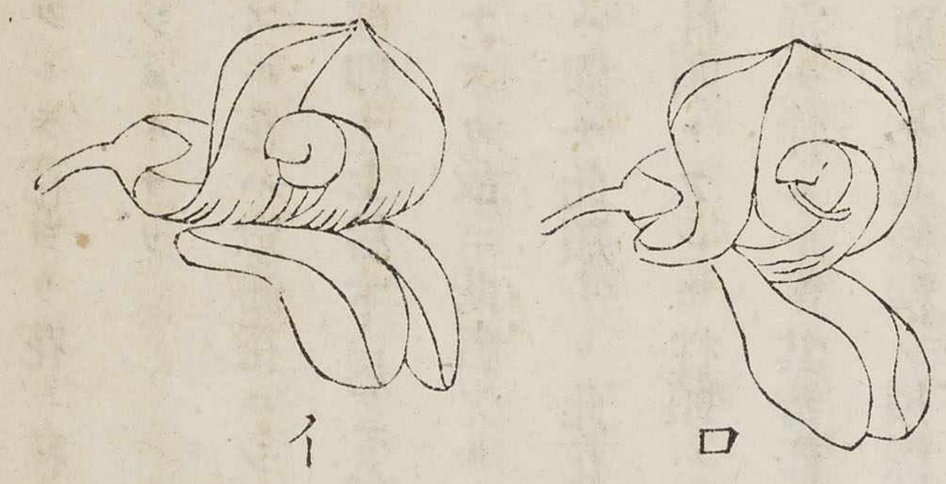
両性花中ニハ雄蕊早熟ノモノ甚タ多クメ石竹、フウロサウ、錦葵、鳳仙花、龍膽、胡蘿蔔、サハギヽヤウ、ソバナ等ハ通常ナルモノナリ

雄蕊早熟ニモ非ス雌蕊早熟ニモ非サル兩性花ニシテ蟲ノ媒助ニ依ラサレハ授精スルヿ能ハサル花多シ其形狀甚タ種々ナリ今其一二ヲ擧ケン

蝶形花ト稱スル花ハ

第十一圖

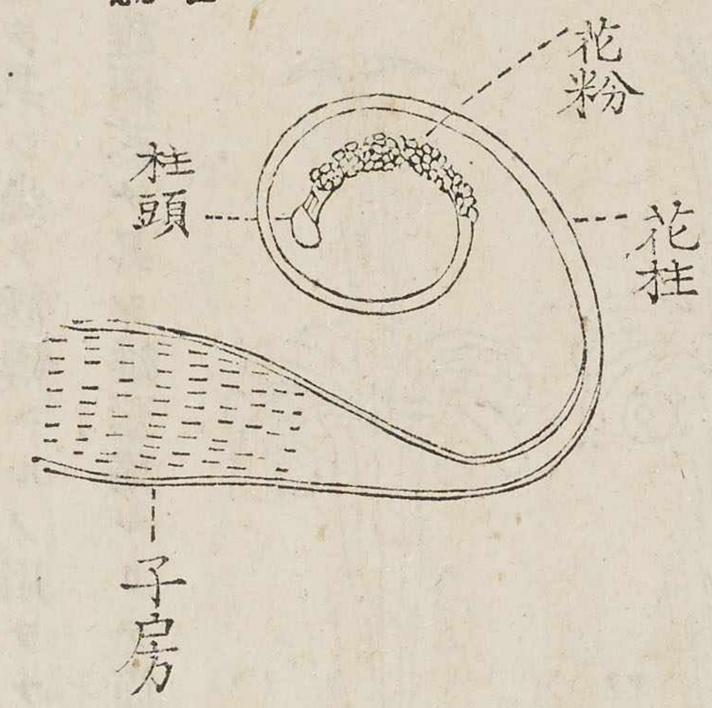
ヰンゲンマメノ花



荳科ノ植物ニ生ス豌豆、サンゲンマメ、ソラマメ、大豆、小豆、ミヤコグサ、フヂ、レンリサウ等之ニ屬ス今サンゲンマメノ花(第十一圖)ヲ以テ此類ノ花ヲ說明センニ上部ニ突起セル大瓣ヲ旗瓣ト稱シ中央ニ螺旋狀ヲナシタル瓣ヲ龍骨瓣ト稱シ最下ニ下垂シタル二瓣ヲ翼瓣ト稱ス雌雄兩蕊ハ龍骨瓣ノ中ニ包有ス葯ハ早ク其花粉ヲ吐出シ花粉ハ花柱ノ毛茸ニ附着ス(第十二圖)翼瓣ヲ下方ニ押サヽレハ花柱龍骨瓣ノ中ニ在リテ見ルヘカラス(第十一圖イ)ト雖モ旗瓣ノ基脚ト龍骨瓣ノ基脚トノ間ニ分泌セル花蜜ヲ採ランカ爲ニ蜜蜂飛來リテ翼瓣上ニ止マルトキハ其重サニテ翼瓣愈〻下方ニ垂レ從テ龍骨瓣ノ上端ノ孔ヨリ花柱突出シ(第十一圖ロ)蜂躰先ツ柱頭ニ觸レ後花柱上ノ花粉ニ觸レ花粉蜂躰ニ附着ス

第十二圖

サンゲンマメノ雌蕊



蜂ハ此ノ如クシテ花ヨリ花ニ移ルカ故ニ媒助シテ相互ノ授精ヲ爲サシムルナリ

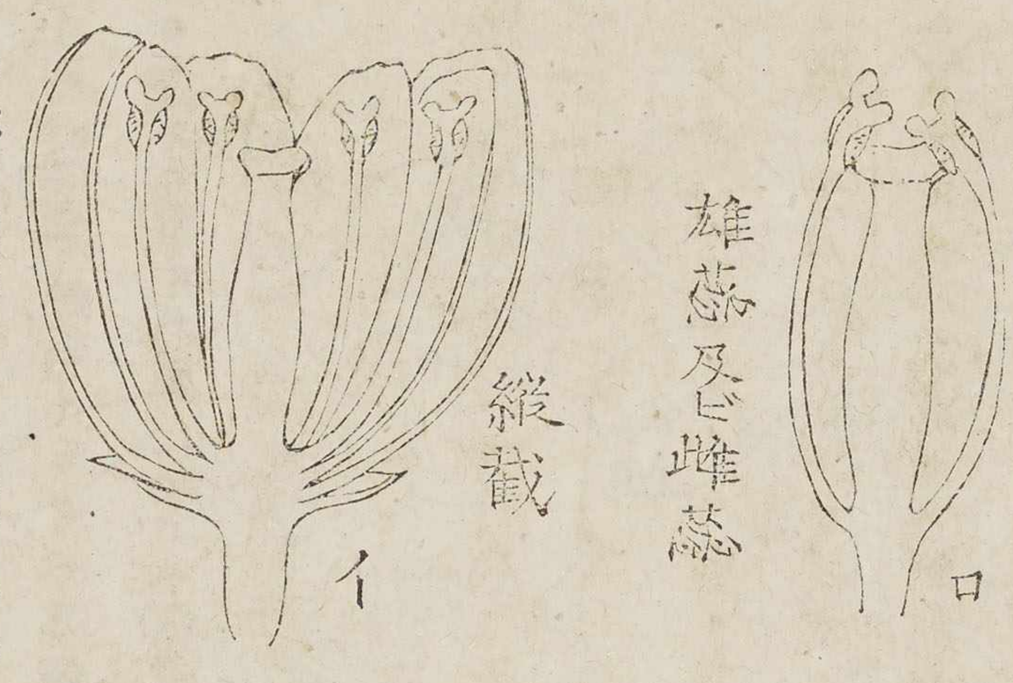
唇形花ト稱スル花ハ單瓣花ニシテ其基脚ハ筒狀ナレトモ緣邊ハ上下二部即チ上唇下唇ニ分裂シ稍〻口ヲ開キタルカ如キ形狀ヲナスカ故ニ此名アルナリチドリコサウノ花(第十三圖)ハ即チ此類ナリ此花ハ穹形ヲ爲シタル上唇ノ內方ニ葯ト柱頭トアレトモ柱頭ハ少シク葯ノ前ニ出ツ蜂來リテ花中ノ蜜ヲ嘗ムルトキ其背部先ツ柱頭ニ觸レ後ニ葯ニ觸ルヽナリ而シテ其授精ノ模樣ハ前ニ揭ケタル花ト大同小異ナリキンギヨサウノ花モ亦稍〻唇形花ノ如クナレトモ下唇突起シテ花筒ノ口ヲ閉ツルヲ以テ異ナリトス此花ノ如キハ大蜂ハ力强キカ故ニ閉合シタル口ヲ推シ開キテ其頭部ヲ花筒中ニ入ルヽヲ得レトモ小蜂或ハ他ノ小蟲ハ之ヲ爲シ得サルカ故ニ媒助ノ効用ナキ小蟲ノ徒ラニ花蜜ヲ奪ヒ去ルヲ防禦スルヿ甚タ妙ナリト云ツヘシ

第十三圖

チドリコサウノ花中ニ蜂ノ入リタル狀

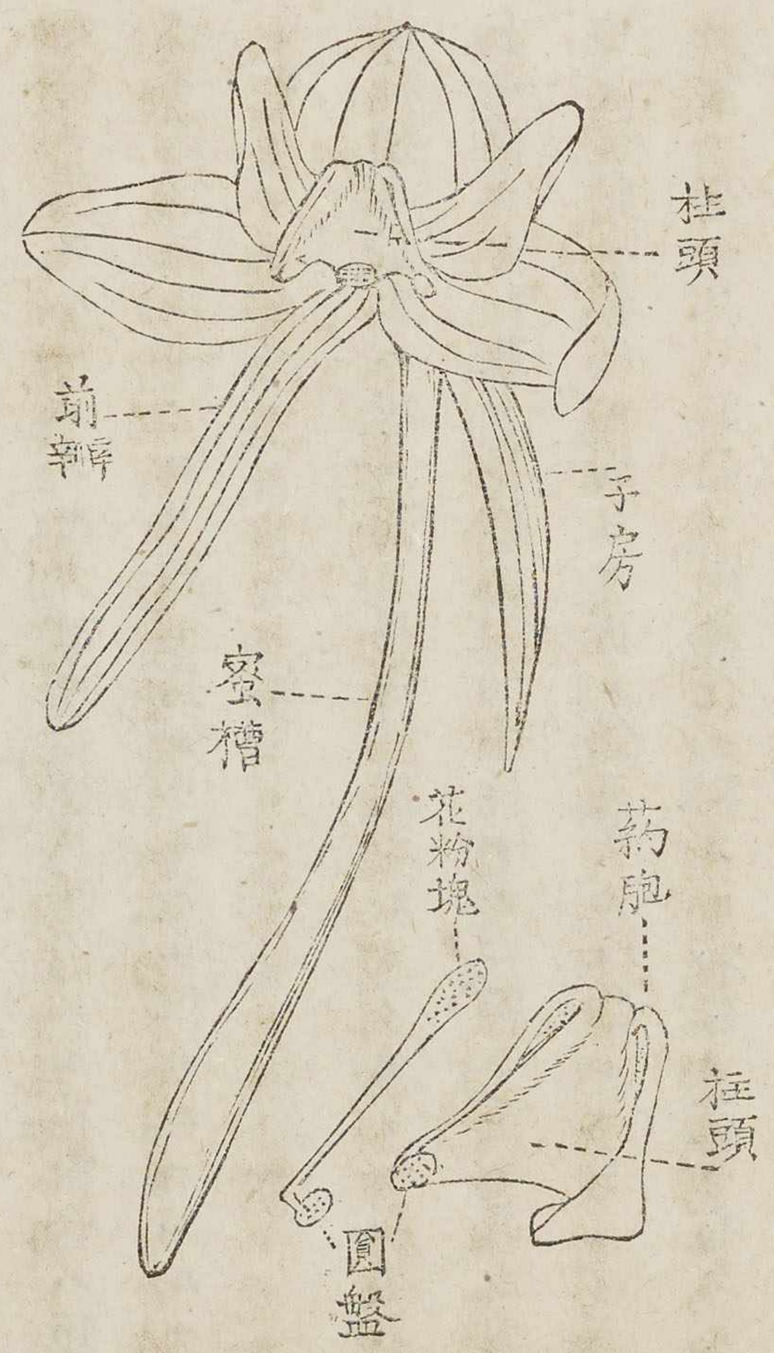
メギ及ビヒラギナンテンノ花ニ於テハ雄蕊花瓣ニ沿フテ開張シ（第十四圖イ）蜜腺ハ各花瓣ノ基脚ニ一双ツヽアリ雄蕊内方ノ基脚ハ甚タ感覺強クシテ蜜ヲ吸ハンカ爲ニ花上ニ來リタル蟲此部ニ觸ルレハ雄蕊急ニ扛起ス（第十四圖ロ）是レ花粉ヲ蟲躰ニ拋散スルノミナラス蟲ヲ放逐シテ花粉ノ附着セルマヽ他ノ花ニ行カシメンカ爲ナリ又ミヤマハヽソ及ヒアハブキノ如キモ其雄蕊ハ急ニ扛起シテ花粉散ヲスルノ力アリ

第十四圖ノ花



植物界中最モ特異ナル花ハ蘭科ニアリ今此科ノ植物ハベナリヤノ花（第十五圖）ヲ説明セン狹長ナル前瓣ノ基脚下方ニ伸長シテ長筒狀ヲ爲シ其中ニ多量ノ花蜜分泌ス是ヲ蜜槽ト云フ花ノ中心ハ葯ト柱頭ト合同シタル一躰ヲ以テ成リ其兩側ノ長キ裂口アル處ハ葯胞ナリ其中央ハ柱頭ノ表面ナリ各葯胞中ノ花粉ハ相密着シテ長形ノ塊ヲ成シ其下部柄ヲ爲シテ柄ノ下端ニ圓盤形ノ小躰アリテ其面甚タ粘質ナリ蛾飛來リテ花上ニ止マリ其頭部ヲ花ノ中心ニ當テ其螺

第十五圖　ハベナリヤノ花

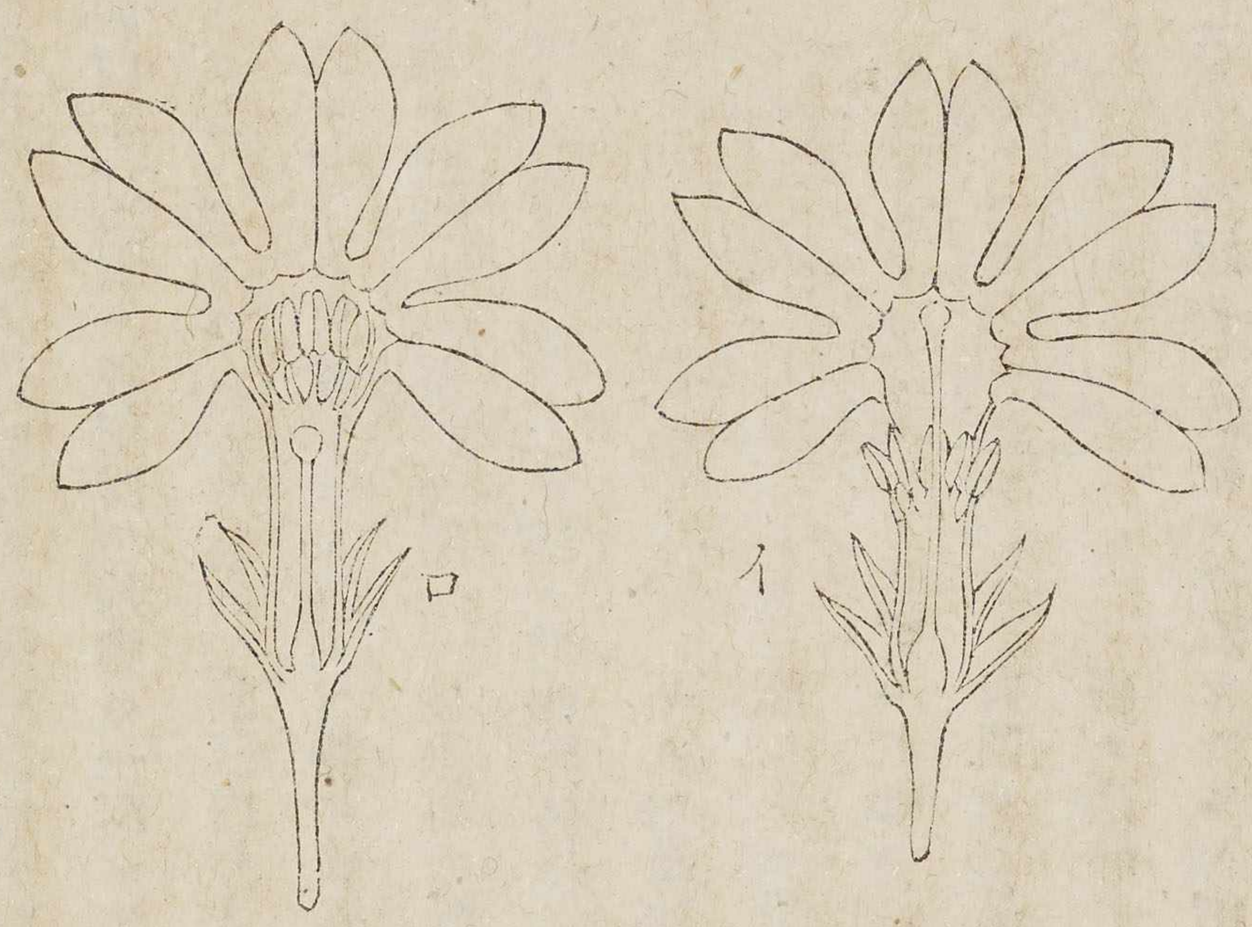


第十六圖　蛾ノ頭部

旋狀ノ嘴ヲ伸長シテ蜜槽中ニ入レ蜜ヲ嘗ルトキ花粉塊ハ通常其圓盤ヲ以テ蛾ノ眼ニ附着ス(第十六圖)最初ハ花粉塊眼上ニ直立スレモ凡ソ一分時ノ後ハ下垂ス蛾又他ノ花ニ至リ其長嘴ヲ蜜槽中ニ入ルヽトキハ眼上ニ携帶セル花粉塊柱頭ノ粘質ナル表面ニ觸レ其一部之ニ附着ス此ノ如クシテ相互ノ授精ヲ爲スナリ實ニ驚クヘキ裝置ト云フヘシ

第十七圖

サクラサウノ花ヲ展開セル狀



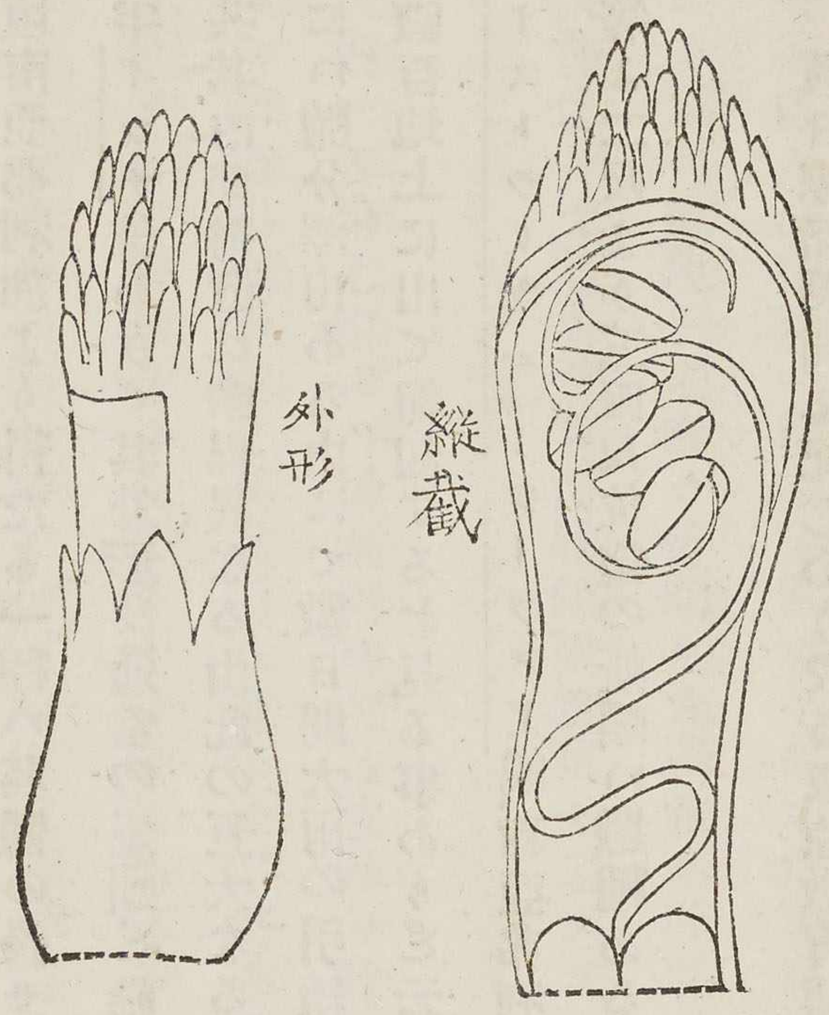
又同種植物ノ花ニ於テ其雌雄蕊ノ長短同シカラサルモノアリ例ヘハ春時サクラサウノ正ニ開クトキ其十數株ヲ檢セハ概子其一半ノ花ハ花冠筒ノ上部ニ柱頭アリテ中央ニ葯アルヲ見(第十七圖イ)又其一半ハ花冠筒ノ上部ニ葯アリテ中央ニ柱頭アルヲ見ルヘシ(第十七圖ロ)今蟲短柱花ニ來ルトセン其躰ノ一部分ニ花粉附着スルナルヘシ此蟲又長柱花ニ至ルトセン其柱頭ニ花粉ヲ置クナルヘシ如何トナレハ短柱花ノ葯ノ高サハ長柱花ノ柱頭ノ高サト一樣ナレハナリ加之短柱花ノ花粉ハ長柱花ノ花粉ヨリ頗ル大ナリ是レ蓋シ花粉ハ花柱ヲ透通シテ子房ニ達スル所ノ花粉管ヲ生スルモノナルカ故ニ長柱ヲ透通スル花粉管ハ短柱ヲ透通スルモノヨリ頗ル長カラサルヲ得サルニ因ルナラン

或種類ニ於テハ雌雄蕊ノ長短三樣ナルモノアリ千屈菜ハ其一例ナリ此草ハ長柱、短柱、中柱ナル三種ノ花ヲ具シ其相互授精ノ模樣前者ヨリ更ニ繁雜ナルヿ知ルヘシ

尋常ノ花ヲ具シ其他ニ閉鎖花ト稱スル特殊ノ花ヲ有スル植物間〻之アリ此花ハ形小ニシテ開綻スルヿナク自己ノ

第十八圖

ホトケノザノ閉鎖花



授精ヲナスモノナリホトケノザ、アフヒスミレ、ミヤマカタバミ等之ヲ生ス(第十八圖)此花ハ尋常花ノ充分發育セサルモノニシテ雄蕊ノ數少ナクシテ花粉ノ數ハ甚タ僅少ナリ雌蕊モ亦甚タ小ナリ然レ𪜈此ノ如キ花ノミヲ具スル植物ハ絶テナキナリ

花ノ授精ト蟲トノ關係ハ既ニ千七百年代即チ第十八世紀ノ終ニ於テスプレンゲル氏カ注意シタル所ナレ𪜈ダルウヰン氏ニ至リテ始メテ植物ハ自己ノ授精ノミニテハ永ク其種屬ヲ繼續スルヿ能ハサルヲ發明シ花ト蟲トノ眞ノ關係ヲ知ルニ至レリ其後ミーレルデルピノーロボックグレー其他ノ學士輩出シ益〻此關係ヲ研究スルニ至レリ花ハ蟲ノ爲ニ變化シ蟲ハ花ノ爲ニ變化シ相共ニ進化スルモノニテ風呂草屬ノ如キハ其各種進化ノ程度一樣ナラスシテ其授精全ク蟲ノ媒助ニ依ルモノアリ通常之ニ依ラサルモノアリ茨蕊(ガマズミ)屬ニハ唯蟲ヲ誘導スルノミヲ以テ効用トナス所ノ顯著ナル無性花ヲ有スル種アリ之ヲ有セサル種アリテ一樣ナラス又蟲ト花トノ未タ全ク相適當セサルモノヽ一例ヲ擧クレハ蜂若シ長筒狀ノ花冠ノ口ヨリ其中ニ入リ花蜜ヲ取レハ固ヨリ授精ノ効アレ𪜈筒ノ一側ニ孔穴ヲ穿チテ花蜜ヲ偷ムヿアリ此ノ如キハ花ニ害アルノミニテ益アルヿナシ然レ𪜈進化ハ際限ナキモノ故向後數萬年ノ後ニハ生物界ニ大ナル變化ヲ生シ此等ノ不適當ナルヿモ無クナリ又他ノ不都合ヲモ生スルニ至ルヘシ進化ノ理ハ實ニ面白キ事ニテ之ヲ研究スル人ノ益〻多キモ亦宜ナリ今日吾人カ常ニ見ル所ノ美麗ナル花有用ナル植物ノ生存競爭劣者必滅ノ規律ニ依テ漸々地球上ニ現出スルニ至リタルヿヲ考フルトキハ格別敏捷ナル人ニ非ルモ自然淘汰ノ眞意ヲ容易ニ覺ルナルヘシ又花ト蟲トノ關係ハ觀察スルニ甚植物間〻之アリ此花ハ形小ニシテ開綻スルヿナク自己ノ

タ難キモノニ非レハ理學者哲學者ヲ論セス若クモ進化論ヲ信スル人ハ之ヲ少シク研究セハ其得ル所必ス多カラン

附言第二、五、七、十一、十二、十五、十六、ノ七圖ハグレー氏ノ書第三圖ハルマウ氏ノ書第四圖ハオリヴェル氏ノ書第六圖ハザックス氏ノ書第十八圖ハロボック氏ノ書ヨリ取リ其他ノ圖ハ新製ナリ

雜報

○巨大ある蚯蚓　蚯蚓と云へは世の人い大抵少ある蟲の如くに思へ共實い隨分巨大なる種類もある由にて近頃英人ベッダルト氏ノチーチュール新聞に投書したるを見るに同氏か先頃南亞弗利加より得たる一種い其體の長サ四五尺位直徑半インチ位ありて其外形は通常の蚯蚓と餘り異あらされ共其内部構造は余程異なる由此の巨大なる蚯蚓ハ彼の地にい隨分澤山ある由にて數日間大雨の引續きたる後よハ數百地上に出て匍匐するを見る事ありと云ふ此外の南オーストラリヤ、ニュージーランド嶋、西亞弗利加南亞米利加等ゟ二尺より三四尺位迄の蚯蚓い數種ある由なり

○理學講義　過日來諸新聞ゟ記しありたる東京教育博物館理學講義い去月廿九日を以て同館圖書室樓上に初會を開かれ續て今月十三日に第二會を催されたり尚以後も毎月二回ッヽ開會せらるヽ由聽講を望む者い案外ゟ多かりし由あるか講義室狹隘あるを以て東京府、埼玉、神奈川、千葉、群馬の四縣の中小學教員百余名と限り聽講券附與せられたり又第一に講義せらるヽ科目い物理學及ひ動物學にて講師ハ後藤牧太氏及ひ箕作佳吉氏あり

○子午線零度　萬國普通子午線零度を定めん爲米國政府の招きに依り同國ワシントン府に會合したる各國委員い去る十月一日より會議を開きしは世人の知る處あるか英國グリーンウイッチ經度を以て零度とあすの動議に對し佛國委員ハ痛く反對論を述へ中立零度（ベーリング海狹の經度の如く何の國をも通らさる經度を以て零度とあすを云ふ）を立てんとを主張したるか故議論中々纏らす十月一日に至りやうやく閉會ゟ至ったりと云ふ右會議にてグリーンウイッチ經度を以て零度とあす事及ひ其他重要ある數件を議決したれ共委さい後號に讓る

○集談會　東京大學醫學部教授諸君ノ開設セラレタル醫

學ニ關スル學術會ハ從前別ニ會頭ヲ置カサリシカ漸々規模整頓ニ趣クヲ以テ此度三宅君ヲ會頭ニ大澤君ヲ幹事ニ撰擧シタリ又會場ハ文部省教育博物館講義室ト定メラレタリ

○理醫學講談會　の第七會にハ村岡範爲馳君波動の說を箕作佳吉君にハ動物組織の說を又其第八會には宇野朗君耳の說を山川健次郎君日本鏡の不思議と云る說を何れも得意の能辨を以て演せられたり特に村岡山川兩君の演說には夥多の試驗を加へられ何れも好結果と奏せり又本年の納會即ち第九會ハ去る七日を以て催され同日にハ松原新之助君手足の說を三宅秀君肺病の說を面白く講述されたり同會の定規に依り明年二月まで休會なり翌三月の第三土曜日より相替らす講談會を始る由扨て同會の初會より第九會までの聽衆の統計を得たれば之を左に登載して讀者の一覽に供す

	切符配付高	聽衆		切符配付高	聽衆
第一會	一〇〇〇	八〇〇	第二會	一〇〇〇	六〇〇
第三會	一一〇〇	八二五	第四會	一一〇〇	八一〇
第五會	九九〇	五六九	第六會	一一三三	九〇〇余
第七會	一一六二	六四五	第八會	一二〇〇	八六五
第九會	一二〇五	九〇〇余			

雜錄

美人ノ奇說

井上十吉

數年前フランシスガルトン氏ハロンドンノ一學會ニ於テ聚合肖像ノ論題ニテ各種ノ疾病ガ人ノ容貌ヲ害スル實力ヲ見ルニハ其病ニヨリテ害セラレタル諸人ノ形狀ヲ寫セル肖像ヲ聚合スヘシト云ヘリ氏ハ其撿究ノ際偶然此聚合ノ肖像ハ常ニ箇々ノ肖像ヨリ美麗ナルヿヲ發見セリ吾人ハ今此發見ヨリ生スル所ノ結果ヲ考フヘシ若シ數箇ノ聚合肖像常々箇々ノ肖像ヨリ美麗ナリトセハ第二ノ合像即チ第一合像ト他ノ肖像トヨリ成ル所ノモノハ第一合像ニ優ルハ理ノ當ニ然ルヘキモノナリ此ノ如ク第三ハ第二ニ優リ第四ハ第三ニ優リ漸ク其美ヲ加フルトキハ吾人ハ唯其數ヲ加ヘテ以テ如何ナル美麗モ欲スル所ノモノヲ得ン尙ホ之ヲナシテ凡百得ヘキノ肖像ノ皆之ヲ增加セハ終ニ最

表樣ヲ見ルニ至ルヘシ此ヲ以テ吾人ハ各種族美麗ノ想像基本ハ凡テ同族中ニ存スル所ノ表樣ヲ寫セル肖像ノ聚合タルヿヲ斷言セント欲スルナリ

此題言ヲ他ノ點ヨリ見レハ更ニ明白ナルヘシ勿論美麗トハ何ソ其性質及ヒ區別ノ點如何トノ疑アルヘシ然レトモ美麗ノ基本ハ種族ニヨリテ表樣ヲ異ニスレハ或ル容貌ヲ取リテ其義ヲ定メント欲スルハ能クスヘキヿニアラス譬ヘハ日本人ハ眞ニ窈窕タル英國ノ婦人ヲ見テモ柔和ナラストシテ喜ハサルカ如ク佛モ其風アリ英モ其風アリテ相同シカラス二國モ亦伊國トハ相異アルナリ然ラハ則何ヲ以テ各人種ハ其小族ニ至ルマテ箇々殊別ノ表樣アルヤ之レ氣候ト時及ヒ外狀ニヨリテ種族ノ受クル諸種ノ狀況ノ然ラシムル所ニシテ通常日本人ノ顏色ハ通常歐州人ト同シカラサルニ至ルハ固ヨリ言ヲ待タサルナリ之ト同シク英佛伊人モ皆其趣ヲ異ニシ每ニ歐人ヲ見ル所ノ人ハ容易ニ此諸人ヲ識別スルヿヲ得ルナリ

吾人ハ通常ノ表樣ト美麗ノ表樣トノ連接ヲ見サルヘカラス今我レ子ニ問ン子カ愛スル所ノ婦人ハ種族想像ノ美麗トハ如何ナル別アルヤ蓋シ子ハ答ヘテ曰ハン顏面圓ニ過キタリ或ハ長キニ過キタリト曰ク眉目下レリ或ハ上レリ又曰ハン大ニ過キタリ小ニ過キタリト其他鼻ノ高低口ノ廣狹臉頤ノ肥瘦長短ヨリ色ノ黑白黃赤ニ至ルマテ過キタルカ及ハサルカ何レニカニ偏ストシテ即チ顏色ヲ評スルハ唯過多ト過小ト云フニ在ルナリ此過多ト過小ハ容色ノ缺點ニシテ何ヲ以テ此ニ多クシテ彼ニ少カルヘキヤノ理由ナシ故ニ過不及兩樣共ニ齊カルヘケレハ吾人ハ凡テ一種族中ノ容貌ヲ平均シテ其中ヲ取ルトキハ縱令純然タル美麗ノ想像基本ヲ得サルトスルモ其至近ノ點ニ達スルヿハ之レアルヘシ蓋シ此ニ過多ナル總計ハ彼ニ過小ノ總計ト彼此相補フハ理ノ當ニ然ルヘキ所ナリ然ラハ則チ許多ノ肖像ヲ聚合スルヿハ此平均ヲ得ルノ至簡最易ノ方法ナリ

此ノ如ク吾人カガルトン氏ノ發明ヨリ演繹セル推論ハ今茲ニ証明セルモノト其歸ヲ一ニスレハ吾人ハ下ノ題言ヲ述フルヿヲ得ヘシ何レノ時ヲ論セス種族美麗ノ想像基本トスル表樣ハ凡テ其時同族中ニ存スル容貌ノ平均ナリ

余ハ今此最後ノ宣述ニ時ノ元素ヲ加ヘタリ今此元素ト此

推論ヲ折衷スル諸他ノ作用ヲ述ヘント欲スレモ已ニ紙面ヲ塡スヿ多ケレハ餘ハ次編ニ讓ルヘシ讀者請フ此論ノ大尾ヲ見スシテ俄ニ是非ヲ判スルヿ勿レ

學者ノ品行　第一

鍊石山人

近頃某ノ省トカ官トカニアリツル奇談ナリトテ知友ノ來リテ語リタルヲ聞クニ長官カ一葉ノ獨逸新聞紙ヲ英學者某ノ前ニ持チ來リ之ヲ譯シ呉ヨト御意アリシカハ某ハ謹テ余ハ英文ヲコソ解シ候ヘ獨逸文ハ能ク讀ミ得候ハスト答ヘラシニ長官ハ不興ケニ汝ハ横文字ヲ解シ得ルトコソ聞ツルニ英文ハ解スルモ獨逸文ハ解シ得ズトヤサテ々々洋學者ト云フモノハ不都合千萬ナルモノナリト云ハレタレバ某ハ唯ダ默然タリシトカヤ蓋シ世間ニテハ洋學者トサヘ云ヘハ英文テモ佛文テモ獨逸文テモ以太利文テモ魯細亞文テモ何テモ蚊テモ皆ナ解シ得ルモノト妄想セルモノ少ナカラス荷蘭陀學ノ渡リシ以來數十年間引キ續キ我國ニ行ルヽ洋學ニ於テスラ猶且斯カル間違アリ況ンヤ漸ク近頃ロニ到リテ研究シ始メタル泰西ノ學術ニ於テヲヤ世人ノ學者トサヘ云ヘハ法律モ經濟モ天文モ地理モ物理モ舍密モ土木器械モ皆ナ知リ得タル人ナリト誤認セルハ深ク咎ムルニ足ラス獨リ怪ム今ノ學者ヲ以テ自ラ居ルモノヽ中ニハ世人ノ自己ヲ八百屋視スルヲ喜ヒ天文デモ性理テモ法律テモ物理テモ何テモ蚊テモ人ノ問フアレハメッタ矢鱈ニ答フルモノアリ愚モ亦甚シキノミナラズ學者ノ地位ノ貴重ナル忘却シテ其品行ヲ破懷シタルモノト云フヘシ何ソヤ學者ノ當サニ務ムヘキハ天地間ノ大規律ヲ明ニシ事物ノ眞理ヲ極ムルニアリテ其先進タルモノハ所謂道ヲ傳ヘ業ヲ授ケ感ヲ解クニアレハ其任ヤ極メテ貴ク其責ヤ極メテ重ケレハ居常細心注意シテ一言半句モ輕忽ニスヘカラス況ンヤ輕ロシク人ノ疑問ニ應シ臆說ヲ吐露スルニ於テヲヤ之ヲシモ學者ノ品行ヲ破懷セスト云ハハ山人亦何ヲカ言ハンヤ吾生也有涯而知也無涯夫レ涯リアルノ生ヲ以テ涯リナキ事物ノ理ヲ極メント欲スルモ得ベカラズ左レハコソ夫ノ分業ノ法ニ從ヒ各オ自ラ好ム處ノ學科ニ專意從事スルヿニシテ此專門ノ一科デスラモ終身兀々トシテ猶オ奥妙ヲ極ムル能ハサル位ナレハ迚テモ他ノ學科ヲ極ムルヿノ出來サルハ尤モ至極ナレハ之ヲ知

ラサルモ決シテ耻トスルニ足ラス亦世人トテモ稍ヤ事理ヲ解スルモノハ學者ニ向テ八百屋學者タルヲ望マサルヘシ自ラ博學者ノ假面ヲ着テ曖昧ノ荅ヲナスコソ反テ百倍モ増シタル慙ナリ孔子モ曰ハスヤ知之爲知之不知爲不知是知也ト

○

諸書拔萃第一章

亭々堂痴史

和文

吾ガ邦上古の言語い自ら詞にあやありて、それを口づからいへるまよ〳〵うつせるゞ古文よいありける、今マその一斑を窺ふべきものは、古事記に載する大國主神國避の條ニ出雲ノ國多藝志小濱に天の御舍を造り給ふときの祝詞あるべき曰ク鎌海布之柄作燧臼、以海蓴之柄作燧杵而、鑽出火云、是我所燧火者、於高天原者、神産巣日御祖命之登陀流天之新巣之凝烟之八拳垂摩豆燒擧、地下者、於底津石根焫凝而、拷縄之千尋縄打延、爲釣海人之、口大之尾翼鱸、佐和佐和邇控依騰而、打竹之登遠々登々遠々邇、獻天之眞魚咋也、とあるゞ殊にすぐれて類ひなき、上世の言辭の美あるをおもふべし、さて古言に通じたるうへにて、古の人情世態も格別よ明らうよしらる、とあり、これにくらき時い徒らに國史等と讀むとも、誤解とに多くして事實をとり失ふことあきにあらず、されゞ古言を學ぶことこれ又〻一科の專業とすべきことあり、大かた奈良の朝より以往の古言の文詞の世に傳われるい、延喜式の祝詞續日本紀の詔詞のみこそあれ、古昔片假名平假名といふものあかりしかゞ、物をしるすに吾ガ邦の言語のまゝにい錄し難ければ、唐土の文法にならひてよろづのことみな漢文もて記しけるを、歌のみいいもる萬葉假名をもて記し、又祝詞宣命も古語のまゝに書てひと文字も違へす、てにをはの假名さへも細書に添たり、これより後中むのしの和文その体裁一あらず、物語にい伊勢竹取うつほ源氏、そのすゞたいおの〳〵同じからずといへど詞いみな賞すべし、日記い土佐日記冠なるべし、後世日記の類多しといへども及ぶべくもあらず、序い古今和歌集ノ序大井川行幸ノ序ともに紀氏の撰にして實に无比のものといふべし、これらをもて中古の體い伺ひ知るべきあり、和文の中自らまた記事議論の體裁そあいれり、殊に源氏の中にてい帚木ノ巻雨夜の品定上ノ段女の心ざまを論じたるところ、中ノ段三ッのたとへと擧て人の眞偽といへるところい議論の法とすべし、下ノ段に各むろしありつることを語りあふところい記事の法たるべし、近世の文い（大中臣輔親卿ノ家集ノ序及び藤原ノ基俊卿の抄物の類）その體俗に近くしてさしも名聲のきこゆる人の文章も、その人にいあらしとおもはるゝもの多かれゞこゝに論ぜず、

明治十七年十二月二日羅馬字會創立會記事略

明治十七年十二月二日午後第四時ヨリ羅馬字會ノ創立會ヲ東京大學理學部講義室ニ開ク、會スル者九十八名、矢田部良吉君ハ衆員ニ向ヒ創立會ヲ開クニ當リ、寺尾壽君ヲ議長ト爲サント述ヘシニ衆員賛成シ之ニ決ス、寺尾壽君議長席ニ就キ衆員ノ來會ヲ謝シ、併セテ本會創立ノ趣旨ハ外山正一君ヨリ演述スヘキ旨ヲ告ケ、席ヲ下ル

外山正一君衆員ニ向ヒ本會創立ノ趣旨ヲ演述ス、

寺尾壽君衆員ニ向ヒ今外山正一君ノ演述ニ關シ若シ異議アラハ直チニ發言セヨト告ケシモ發言者ナキヲ以テ議長席ニ就キ討議ヲ開ク旨ヲ告ク、

先ツ本會ノ名稱ヲ何ト名クヘキヲ議題ト爲セシニ矢田部良吉君ハ羅馬字會ト名クヘキ旨ヲ陳ヘ、他或ハABC會音字會横文字會日本言改良會ト名クヘキノ説アリシカ、多數ニヨリ羅馬字會ト名ルニ決ス、

次ニ會則起草委員撰定ノコトヲ議題ト爲セシニ、矢田部良吉君ヨリ寺尾壽隈本有尚外山正一山川健二郎松井直吉箕作佳吉北尾次郎ノ諸君ヲ委員ニ撰ノヘキノ説ヲ出シ、外山正一君ヨリ矢田部良吉君ヲ其委員中ニ加フヘキノ説ヲ出セシカ、多數ニヨリ可決ス、

次ニ字音取調委員撰定ノコトヲ議題ト爲セシニ、或ハ直チニ撰定スヘシト言ヒ、或ハ後會ニ讓ルヘシト言フノ説アリシモ、多數ニヨリ後會ニ讓ルヘキニ決ス、

次ニ會費ノコトヲ議題ト爲セシニ或ハ其額ヲ會則起草委員ニ付託スヘシト言ヒ或ハ會員ノ數豫定セサレハ其額ヲ定メ難シトノ説アリシカ、矢田部良吉君ヨリ一ケ年金壹圓ト爲シ學生ニ限リテ會費ヲ徵セサルコト、爲サントノ説ヲ發セシカ、土岐君ヨリ學生ニ限リ會費ヲ一ケ年金四十錢ト爲スヘシトノ説ヲ發セシカ、多數ニヨリ一ケ年金壹圓ト爲シ學生ニ限リ一ケ年金四十錢ト爲スニ決ス

次ニ後會ハ何日ニ開クヘキヤヲ議題ト爲セシニ、外山正一君ハ來ル二十三日ニ開クヘシト言ヒ、谷田部梅吉君ハ十八年ノ一月ニ延スヘシト言ヒ、他ニ種々ノ説アリシカ、多數ニヨリ二十三日ニ開會スルニ決ス、

議長寺尾壽君ハ來ル廿三日ニ後會ヲ開クヘキ旨ヲ衆員ニ告ケ散會ヲ報ス時ニ午後第六時十五分

持主　有田定次郎
編輯人　小柳津要人
印刷人　廣瀨安七

東京京橋區南傳馬町壹丁目十番地
發行所　東洋學藝社

大賣捌　神田雉子町通三丁目　巖々堂
麹町三丁目　丸善
文海堂